

The 40th
Anniversary
of
JOSAI
UNIVERSITY

われら新しき文化を創る

学校法人城西大学 40周年記念誌

The 40th
Anniversary
of
JOSAI
UNIVERSITY

われら新しき文化を創る

学校法人城西大学 40周年記念誌



▲学旗

十字の羅針は、大志をもつ青年が人生行路を正しく歩むための方位を表しています。3枚の櫨の葉に託した人生に必要な「理智」「愛情」「勇気」を示しています。大の字を囲む中心の円は調和を、大きな円は大局的な判断と真理性、真実性への精神が必要であることを強調しています。

「バッジの言葉」より

建学の精神

われわれが、昭和40年4月に総合大学として城西大学を創設したのは、一つには、近年向上しつつある国民の進学要望に応えるためであり、二つには、国家社会のよりよき形成者としての人材の育成は、既成の大学だけでは充分でないと考えたからである。

いうまでもなく、学問はそれ自体が目的ではなく、あくまでも人間形成の手段である。立派な人間によつてのみ、立派な社会がつけられるのだから、現世のために、後世のために、国家社会の重荷にたえられる人材の教育を天職として、挙学その責に任じたいと考え、この大学を創設したのである。

そのためには、大学の校地は都塵を避けた秩父山麓、檜ヶ丘の高台に、富士山と上毛の山々と高麗の清流を望む広大な地域を選び新しい施設と設備を造りあげた。

この絶好の教育の場に、優れた研究者で見識の高い教育家を教授陣に迎え、その智と和を一体とした熱意ある指導のもとに、高き理想を持ち、真理と正義にひたむきで、英知と人間愛と勇氣に充ち、精神的推進力を持った現下社会の要求する有用な人材の育成を目指して、特色ある学風を創り、国家社会の発展に寄与したいと念願している。

大学はまた、われわれが日々生活をともしている自然ならびに社会に関する基礎的な理論とその歴史的な発展の諸法則を科学的に研究すると共に、実社会において、その応用能力を発揮するための思考力と実践力を身につけることを主眼として学生に教育に当たっているが、この武蔵野の一角に、その象徴としての檜の大樹のように、新しい文化の創造育成にとめたい。

創立者・初代理事長 水田三喜男

昭和44年 卒業式

告 辞

告 辞

本日茲に本学第一回の栄えある卒業式を挙行するに当り、初代学長として所感の一端を申し述べる機会を得ましたことは、私の深く歎びとするところであります。顧みますれば本大学が創設され第一回の入学生として諸君が校門をくぐられたのは、昭和四十年の四月でありました。爾来早くも年を閲みすること四星霜、今初代の卒業生として茲に諸君を御送りすることは、真に感慨深いものがあります。その間、諸君はよく創業の不便に耐えてくれました。本学はその立地条件に於いて、素晴らしい自然の環境に恵まれております。秩父の連峯を望み、高麗川の清流に沿うて、武蔵野のおもかげをとどめている田園と丘陵に囲まれたこの学園の存在は、将来必ずやその意義を発揮するものと私は確信しておりますが、しかし、それ文諸君には長い間交通の不便をかけたことであり、雨の日には泥んこの道を歩かせたことでもあります。

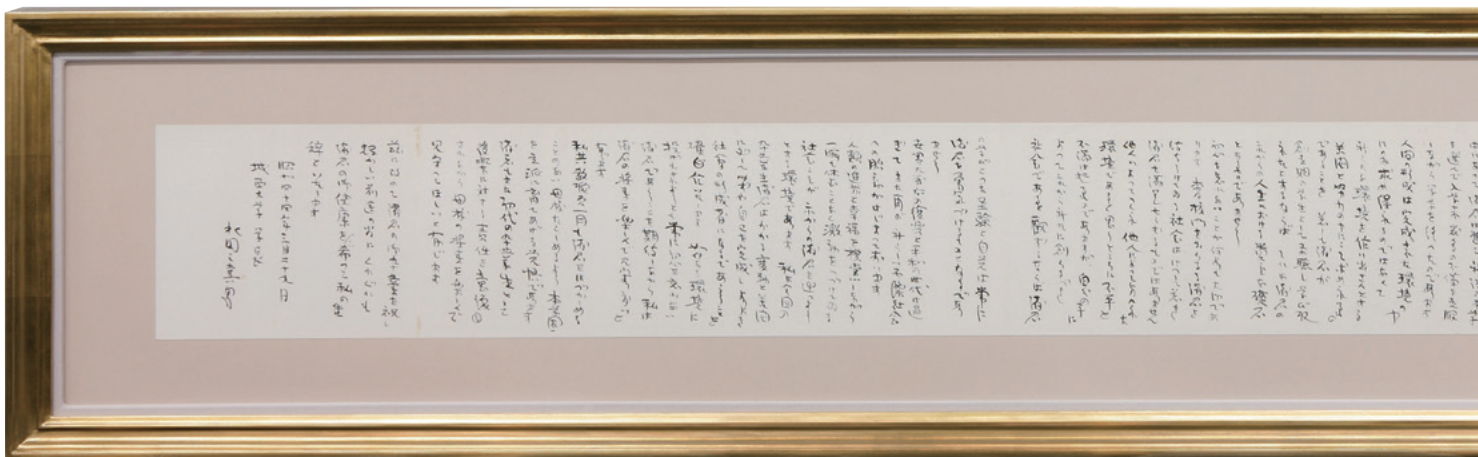
私はまた本学創設の際におきまして、学問はそれ自体が目的ではない、あくまでも人格形成の手段であるということ、また、国家社会のよりよき形成者としての人材の育成は、既成の大学では充分でないことを強調いたしました。当時のこの考へ方は昨今に於ける大学教育の現状を見ると、きつて誤ってはいなかったことを思うのであります。

然しながら如何なる時、処におきましても、凡そ新しい創業の仕事は、平坦な道ではなくて、多くの苦難を伴うものであります。

従つて教育のあり方において、施設、教課の充実において、諸君を満足せしめなかつたところも多かったことを思うのですが、諸君はよく創立期の不備にも耐えて、所定の学業を修められました。私は心から敬意を表するものであります。

吾国における大学は現在八四〇校を数うるにいたっております。

何十年の伝統をもち完備された施設をもつ大学に学んでいる学生諸君の多くが、



學業を放棄している中であつて、諸君は然し新設の本学を選んで入学され、幾多の不備を克服しながら學業を終えたのであります。人間の形成は完成された環境の力にのみ求め得られるのではなくて、新たな環境を作り出さんとする苦悶と努力の力にこそ求められるものであることを、若しも諸君が創立期の学生として経験し学び収められたとするならば、それは諸君のこれからの人生における貴重な礎石となるものであります。

初心を忘れないことが何よりも大切であります。本日校門を出らるる諸君を待ちうけている社会は、けつして若き諸君を満足せしむるものではありません。他人によつてつくられ、他人によつて与えられた環境であると思ふところに、不平と不満は起るものでありますが、自分の手によつてこれから新たに創らるべき社会であると歆ずるならば、諸君の学びとつた経験と自覚は常に諸君を勇気づけるものとなるであります。

世界大戦後の復興と平和の時代は過ぎて、また再び新しい国際社会への胎動がはじまつております。

人類の進歩と幸福を模索しながら一瞬も休むことなく激動をつづけている社会こそが、これからの諸君を迎えようとする環境であります。私は今回の卒業生諸君はかかる変動と苦悶に処して必ずや自己を完成し、よりよき社会の形成者になるであろうことを確信いたします。如何なる環境に投げ出されようとも常に初心を忘れない諸君であろうことを期待しながら私は諸君の将来を楽しんで見守り度いと存じます。

私共教職員一同も諸君をはづかしめることのない母校たらしめるよう、本学園を立派に育てあげる覚悟であります。諸君もまた初代の卒業生として後輩に対する責任を意識されながら母校の将来を楽しんで見守つてほしいと存じます。

茲に改めて諸君の御卒業を祝し、輝かしい前途の先にくれぐれも諸君の御健康をこい希つて私の告辞といたします。

昭和四十四年三月二十九日

城西大学 学長 水田三喜男

城西大学学歌

雄渾に (♩=112位)

marcato

作詩 草野心平

作曲 小山清茂



こまがわは うねうねうねり きたになんたい にしちちぶ
ぐんじょう の てんさえわたり そよ かげにおう わかきほほ
せいなんにふじの むらさき けて こかおきいなる けやねだちにもし
おーおともがらよ まゆ あげ て こかおきいなる けやねだちにもし
みらいをせおい うとも がら つどう ああ われ ら が し
りとせ いぎ ひたにもとめん ああ われ ら が し
ほき こな じょう さ い にち り んに さんとき ひ かん か を
1. が や く 2. つ く る *pesante*

城西大学学歌

作詩 草野心平
作曲 小山清茂

一、高麗川は うねうねうねり

北に男体 西秩父

西南に富士の むらさき

ここ大なる 檣台地に

未来を背負う 朋がら集う

ああ われらが母校 城西

日輪に燦と 光りがやく

二、群青の 天冴えわたり

そよ風匂う 若き頬

おお朋がらよ 肩あげて

高き理想を 胸ぬちに燃し

真理と正義 ひたに求めん

ああ 美しき哉 城西

われら新しき 文化を創る

城西短期大学学歌

— 清き岸辺に —

作詞 高良 留美子

作曲 吉岡 しげ美

さわやかに明るく ♩=104

さ み 一 わ や か な ひ か り を あ び て そ 一 ら た か き け や き 一 な み き の わ か し
み 一 ど り な す わ か く さ を ふ み 一 り ぎ よ き こ 一 ま 一 が わ の き し

に べ に た つ と き か ぜ は か た り か け る か ぜ は か た り か け る わ か き ひ の ゆ ぞ
た つ と き な み は 一 と い か け る な み は 一 と い か け る は る か な の

め み は て し な き み ち ら い ま わ れ ら は つ ど う う る わ し き う る わ し き じ ゃ う
せ い し ゅ ん の み あ あ わ れ ら の ぼ こ う か が 一 や く か が 一 や く じ ゃ う

さい さい と き 一 は め ぐ る か げ は う つ る

さ や ー ぐ こ の ー は よ あ け ー の こ こ ろ こ こ ろ め く め く あ し た は ま ね く す こ

や か な き ゃ う の あ ゆ み じ ゃ う さい じ ゃ う さい じ ゃ う さい

城西短期大学学歌

清き岸辺に

作詞 高良 留美子
作曲 吉岡 しげ美

一、さわやかな 光を浴びて

空高き けやき並木の

丘に立つとき

風は語りかける

風は語りかける

若き日の夢 はてしなき道

いま われらは集う

うるわしき うるわしき 城西

二、みどりなす 若草を踏み

水清き 高麗川の

岸辺に立つとき

波は問いかける

波は問いかける

はるかな希望 青春の道

ああ われらの母校

かがやく かがやく 城西

時はめぐる 影は移る

さやぐ木の葉 夜明けの意志

めくるめく 明日は招く

すこやかな 今日歩み

城西 城西 城西

創立者

水田 三喜男

本学の創立者・水田三喜男は1905年(明治38年)、千葉県安房郡に生まれ、安房中学から水戸高校を経て京都大学法学部に進みました。学生時代は反戦・反軍の学生運動に参加するなど、新しい社会づくりのために情熱を燃やす若者でした。1946年(昭和21年)には戦後初の衆議院選挙で初当選し、以来30年にわたって、通産大臣・大蔵大臣を歴任するなど、日本の経済復興と成長に尽力したことは

高く評価されています。

一方、若き日に小学校の教壇に立って以来「教育」に対する熱意も大きく、「国をつくるためには、優秀で、人間としての魅力にあふれた人材を育てなければならない」と考え、義務教育費や文教施設費の国庫負担や私学助成の事業にも力を注ぎました。そして、1965年(昭和40年)4月には城西大学を創立し、若き日からの教育に対する夢を実現したのです。



▲旧制水戸高等学校時代(前列右から2人目が創立者水田三喜男理事長)



▲昭和21年4月、衆議院議員初当選



▲昭和46年12月17日、ワシントンのスミソニアン博物館で10カ国蔵相会議開催。20年間以上、1ドル360円に固定されていた円レートは、19日に16.88%切り上げられ308円となった。水田蔵相は大蔵大臣談話で、日本の国際経済社会における役割、円切り上げの意義から説き起こし、国民と共に「新しい通貨」の下、「新しい国づくり」に邁進したい、との決意を述べた。



▲青雲の志に燃えて



▲昭和51年4月、勲一等旭日大綬章を受章



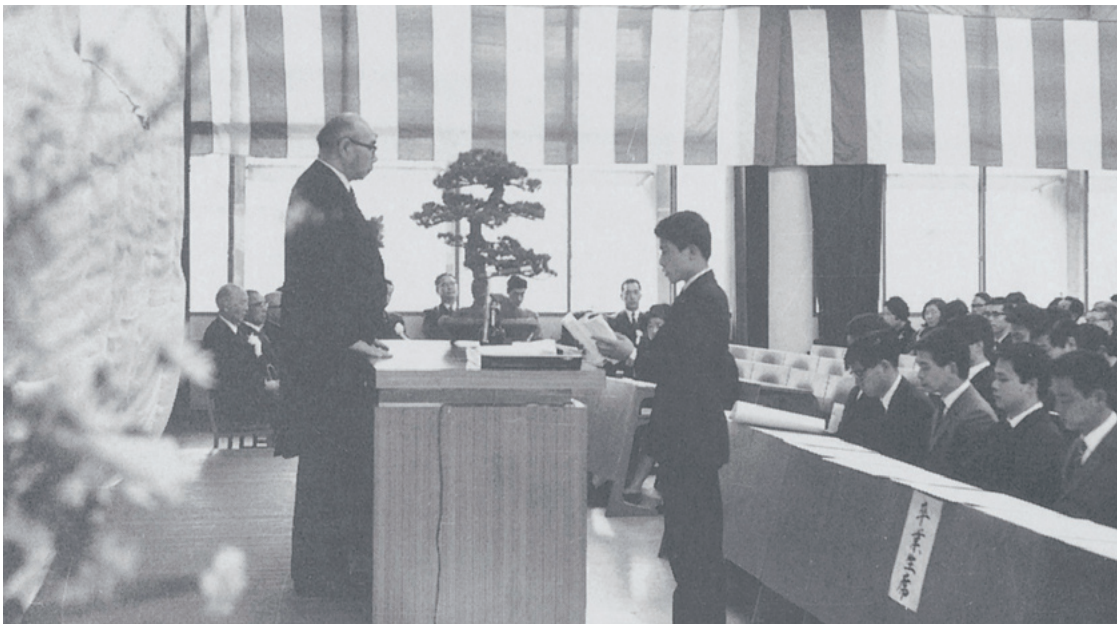
▲新入生の宣誓に直立不動で応える



▲学生たちと談笑する創立者水田三喜男理事長



▲学内を説明する創立者水田三喜男理事長



▲昭和44年3月城西大学第1回卒業式

城西大学は昭和40年1月、大学設置の許可を受け、同4月20日には、経済学部、理学部が正式に開学しました。水田三喜男理事長は初代学長に就任。初年度の学生は175人でした。



▲橋本博英画伯作



▲卒業証書を手渡す水田三喜男学長



▲所在地:千葉県鴨川市



創立者生家

酪農地である嶺岡牧場の歴史を伝える貴重な建造物。
文化庁登録有形文化財、「千葉県建築文化賞」受賞

創立者水田三喜男の生家である旧水田家住宅は、江戸時代以来の酪農地である歴史を伝える建造物として貴重なものです。
建築年代は、母屋が江戸後期、長屋門は母屋と同時期か明治初期と推測されます。

名誉理事長

水田 清子

1912年(明治45年)生れ。1934年(昭和9年)水田三喜男と結婚。
1970年(昭和45年)勝又一透氏に師事、「岬」に投句。
1971年(昭和46年)より富安風生氏に師事、「若葉」に投句。
1976年(昭和51年)城西大学理事長に就任し、以来2004年(平成16年)名誉理事長に退くまで、城西大学の理事長として城西大学女子短期大学部(現城西短期大学)、城西国際大学を創立。俳人としても知られ、句集「白鳥」や「高麗堤」などを刊行しています。



▲昭和57年4月8日、城西大学第18回入学式



▲昭和63年、城西大学女子短期大学部学生に対する講話



▲昭和61年、延辺医学院と友好協定を結ぶ



▲城西大学女子短期大学部の開学竣工式であいさつする水田清子名誉理事長



▲城西大学女子短期大学部卒業生と水田清子名誉理事長



▲国立婦人教育会館(現 国立女性教育会館)にて城西大学女子短期大学部第1回生たちと



▲句碑の除幕式を表紙とした同窓会「けやき」39号



▲水田清子名誉理事長句碑

石路の花
遺業をまもり
余生守り

清子



▲総合体育館は、アリーナ、温水プール等を整えています。



▲水田記念図書館は、完成とともに大学のシンボルとなりました。





▲清光会館のすばらしい形は埼玉景観賞を受賞しました。



理事長 水田 宗子



1960年(昭和35年) 東京女子大学 文理学部 英米文学科卒業。

1970年(昭和45年) 米国イェール大学 (American Studies) 博士号 (Ph.D.) 取得。

南カリフォルニア大学比較文学部準教授、学校法人城西大学専務理事、城西国際大学人文学部教授、城西大学学長などを経て、1996年(平成8年)より城西国際大学学長、2004年(平成16年)学校法人城西大学理事長就任城西国際大学学長兼任。

著書に『エドガー・アラン・ポオの世界』『鏡の中の錯乱——シルヴィア・プラス詩選』『ヒロインからヒーローへ——女性の自我と表現』『フェミニズムの彼方』『物語と反物語の風景』『ことばが紡ぐ羽衣』『二十世紀の女性表現』『女性学との出会い』『ジェンダーで読む』韓流文化の現在』など多数。

【研究分野】 アメリカ文学、比較女性文学、ジェンダー文化論、現代詩、文学批評

【所属学会等】 日本文学会、日本女性学会、日本アメリカ文学会、ボー学会、日本近代文学館評議員、日本ペンクラブ会員、日本文芸家協会会員

本日は学校法人城西大学、および城西大学の創立40周年を迎えるにあたりまして、皆様に感謝の気持ちをお伝えいたしたく存じましたところ、このように多くの方々のご出席を得まして、大変ありがたく存じます。お忙しい時間を割いていただき、また遠方からおおいでいただきました皆様、そして、海外からお越し下さいました姉妹校の皆様、心から御礼を申し上げます。

城西大学は、戦後の苦難にみちた復興期を経て、日本がようやく順調で持続的な経済発展へと向かい始め、新たな国際的な役割を担うべく期待されるようになった1960年代の半ば、1965年(昭和40年)に、埼玉県坂戸市けやき台に創設されました。

創立者の水田三喜男は、1946年(昭和21年)に施行された新憲法のもとでの第一回総選挙に、41歳で千葉県から立候補し、以後30年、国会議員として、日本が戦後の荒廃から立ち直るための仕事に心血を注いだ政治家でございました。その間、自民党政調会長、経済企画庁長官、通産大臣、大蔵大臣を歴任し、国の経済政策、財政金融政策においてリーダー的役割を果たしました。また、日本の復興と発展に伴って増大する国際的な役割と責任を果たすべく、賠償問題の解決から貿易為替の自由化、円切り上げ、発展途上国への援助、為替レートの正常化など、6度にわたる蔵相として、国際会議で日本代表として活動した、国際派の政治家でありました。

しかし、それとともに日本の真の振興と発展を果たすためには、国と社会の将来を担う人材の育成こそがもつとも大切であり、また急務であると考えて、水田は大学の設立を志したのでした。その建学の精神は、「学問による人間形成」であり、「学問はそれ自体が目的ではなく、学ぶことを通じての人格の陶冶にある」というものでした。日本の将来を担う、社会に「有為な人材」の育成を「学問による人格形成」に託した、創立者のこの夢と志を今日まで受け継ぎ、それを実現してることができたのは、教職員はじめ、多く

の支援者の方々の努力の賜でございます。

城西大学の創立から10年の間は、卒業生も少なく、同窓会もまだ幼く、教育業績や名前もまだよく知られていない若い大学で、多くの困難がありました。経営的にも決して安泰ではなく、施設設備も充実しているとは言えませんでした。

4月20日、学内での教職員、学生ともに40年を振り返った会で、現在の同窓会会長で、二期生である佐藤鉄也さんから、創立間もない城西大学での学生生活についてお話をいただきましたが、在学生たちは現在の大学との違いに驚き、感慨を深めたことと思います。

そのような、施設も整わず、社会的評価も定まっていなかったなかにもかかわらず、城西大学がその多難な10年を乗り越えて、発展の道を切り開くことができたのは、ひとえに創立者の志に賛同し、フロンティア精神に燃え、一丸となって大学の基礎作りを専心した法人役員と教職員たち、そして、未だ名声もない本大学の教育方針に信頼を寄せて子どもたちを送ってくださったご父母たち、学生を本学に推薦してくださった高等学校の先生方、卒業生を持続的に採用してくださった多くの企業、そして、地域の大学として、本学を支持し続けてくださった坂戸市の方々の熱い気持ちと力の賜でした。

城西大学が創立された1965年(昭和40年)は、東京オリンピックの翌年で、日本は高度成長期に入っていました。が、まだまだ就職難の時代でした。それから今日まで持続的に城西大学の卒業生を採用し続けてくれた数多くの地方自治体の皆さんに、あらためて感謝申し上げます。

現在では、6万人を超す卒業生が、しっかりと城西大学を支援し、後輩に温かい声援を送ってくれる、頼もしい同窓会に育っております。また、創立後まもなく発足した父母後援会は、今でこそ他大学にもある組織となりましたが、つい最近までは本学特有の支援組織として教育を側面から支援し、学内外での課外活動の後援、学生生活の安全と充実のための

奨学金をはじめとする各種の援助や救済事業など、大学発展のためのさまざまな支援活動を展開してくださっております。大学、同窓会、父母後援会と、この三者が心を合わせて若い人たちの人格形成と社会に有為な人材の育成にあたってきた、城西大学の40年の歴史は、私たちが心から誇りに思うものであり、またそれは今後長く変わることのない本学の根本的なあり方として継承していかねばならない伝統であると考えております。

創立者の水田三喜男は創立10周年を経た1976年(昭和51年)に亡くなり、その後大学附属高校川越高校の理事長でもありました水田清子理事長が就任され、以後27年のながきにわたって法人活動と業務の指揮をとられました。生前の水田三喜男を支えてくださった方々こそが、城西大学の創立期を経て、今日までをしっかりと守ってくださった方々であることを考えますと、創立者もよろこび、感謝申し上げます。

その間、城西大学は学部増設、大学院設置、国際交流の推進、情報教育の推進、そして施設の充実に努めてまいりましたが、1980年代には、清子理事長の指導のもとで、「城西大学女子短期大学部」を創設いたしました。女子短期大学部は、女性の社会進出が急速に進み、また将来、労働力が減少していく日本でもより高い女子教育の必要性が強まることを認識した本学の取り組みでしたが、今日まで多くの女性職業人を育成し、大学の多様化にも貢献するところが大きかったと思います。今年から短期大学は男女共学になり、新しいスタートを切っております。

さらに1990年代に入って少子化が現実化し、教育のグローバル化が進み、教育、研究、人材育成における大学間の競争が激しくなる将来に備えて、学校法人の将来を考慮し、清子理事長のもと、千葉県東金市に城西国際大学を開設いたしました。

城西大学の創立期、水田三喜男の出身地である千葉県からは多くの学生が城西大学に来て学んでお

り、千葉県は創立期の大学を支えた基盤地域でした。その後、城西大学は全国から学生が学びにくる大学へと成長しましたが、創立者の地元である千葉の地に城西大学をとという要望はその後強く、城西国際大学が東金市の強い要請に応じて開設されました。設立にあつたのは、城西大学の多数の教職員が協同して作業を行い、また、城西大学の多数の卒業生が職員として現在まで大学の基礎作りに専心しており、城西国際大学の事務局は管理職から若い職員まで、半数近くを城西大学の卒業生が占めております。

現在では、兄弟あるいは姉妹で城西大学と城西国際大学に学ぶというようなケースも稀ではなく、文字通りの兄弟校、姉妹校としてお互いの大学院へ進学し合ったり、海外の姉妹校を共有して、同じ海外プログラムに参加したり、スポーツの応援も合宿も一緒にいう仲に育っています。1990年代は、また、両大学と短期大学を基盤に福祉や医療薬学、物質科学、メディアなど、新しい人材を必要とする分野や領域での教育の開拓と推進のための新たな学部の設置、海外教育、国際交流の推進、専門職業人の育成のための大学院の設置、研究機関やセンターの開設を積極的に行っていました。現在では海外に14の姉妹校があり、研修やインターシップ、デュアルディグリーをはじめとする教育共同研究と研究者の交流など地道な成果をあげてきております。

学校法人城西大学は、また、教育施設の充実にも力を注いできました。昨年は念願のセミナーハウスを千葉県鋸南町と鴨川市に開設いたしました。40周年の記念としたいというありがたい支援のご提案を同窓会、父母後援会からいただいて、本年1月には、東京千代田区の紀尾井町に城西大学東京キャンパスを開設いたしました。東京キャンパスは三大学をつなぐ中心点に位置し、遠隔教育、大学院をはじめとする社会人教育、海外教育の充実に役割を果たす施設となるように考えております。

また、城西大学、城西国際大学ともにスポーツと課

外活動に力を入れてまいりました。創立者の文武両道の精神を継いで、野球、弓道、駅伝をはじめとする陸上競技、そしてサーフィンと全国制覇をしたクラブが目立つようになりました。

このように城西大学が創立以来40年、さいわいに順調な歩みを刻んでくることができましたのは、卒業生の就職先の企業をはじめとする社会からの大学への評価とさまざまな応援、協同教育を推進してくれる附属高校をはじめとする全国の高等学校や予備校の先生方、そして本学の教育に揺るぎない信頼を寄せてくださる父母後援会の皆さん、母校愛に満ちて後輩に熱い声援を送ってくれる同窓会の皆さんと、本当に多くの方々のおかげです。講座を寄付してくださる企業も増え、生命科学研究所やかずさアカデミーパークに創業研究所も開設することができました。

昨年5月、高齢のため水田清子前理事長が名誉理事長になられ、代わって私が理事長を仰せつかりました。ここまで法人事業を進展、発展させ、大学の礎を作ってこられた、前理事長をはじめとする、理事、監事の先達の方々に感謝し、これからの大学教育、研究と人材育成に、新しい決意を持ってあたりたいと考えております。

21世紀を迎えた今、日本の大学、とりわけ私立大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりで、城西大学を支援してくださる方々の今後一層のご協力とご支援、ご理解が不可欠です。平和で豊かな未来の社会と文化を築き、卒業生の皆が一人ひとり、それぞれの充実した人生を切り開いて、社会貢献をしていくために、これからは建学の精神である「学問による人間形成」の実現が、さらに重要になることでしょう。

40年にわたる本学の教育、研究成果と、大学の伝統の構築に貢献してくださった多くの方々にあらためて心から感謝し、これからの城西大学、および法人の発展のために、それぞれが職責を果たし、全力を挙げて努力することをお誓いして、私の挨拶とさせていただきます。

(2005年4月26日 40周年式典(ご挨拶より))



▲城西大学女子短期大学の教授としての授業



▲国際文化教育センター設立



▲城西大学経営学部棟竣工式



▲城西国際大学竣工式



▲埼玉県とリカレント教育で協定調印



▲城西大学・城西短期大学 入学式 開学部式



▲坂戸キャンパスで記念植樹



▲大連理工大学との協定調印



▲ブタベスト商科大学と協定調印



▲ウェスタンミシガン大学との協定調印



▲パーススバ大学との協定調印



▲中国伝媒大学と協定調印

歴代学長

創立者
初代

水田 三喜男

昭和40年～昭和46年



第二代
新藤 富五郎

昭和46年～昭和48年



第三代
前田 充明

昭和48年～昭和53年



第四代
穂刈 四三二

昭和53年～昭和55年



第五代
堀井 善一

昭和55年～昭和58年



第六代
渡辺 徳二

昭和58年～昭和61年



第七代
松浦 泰次郎

昭和61年～平成6年



第八代
水田 宗子

平成6年～平成8年



第九代
川面 博司

平成8年～平成11年



教育のグローバル化と多様化に応える城西大学の新たな挑戦



城西大学
城西短期大学
第十代 学長 田中 昭

昭和40年の創立から城西大学がたった40余年間は、その大半が日本における高等教育の成長期でもあり、日本そのものの成長期でもありました。大学の使命も、それに応える教育と研究の体系を築くことでありました。

しかしながら、近年の日本は成長一途の経済構造から、大きな変動と再構築の時代へと変わりました。さらに、地域や国境を乗り越える国際化と情報化が進み、社会構造も変化したことから、高等教育もまた、若い世代から社会人の再教育機会まで包括した幅広い対応を求められることとなりました。

城西大学はこの激動の今を、建学の創生期、女子教育の育成と城西国際大学の建学を行った第二の建学期をふまえた「第三の建学期」と位置付けました。「学問はそれ自体が目的ではなく、あくまでも人間形成の手段である」との建学の精神を今日に実現すべく、

現代政策学部社会経済システム学科、薬学部薬学科と薬科学科の開設、並びに城西短期大学のベースカレッジとしての機能向上も、この具現の一つとらえています。

このような組織改革に加え、本学では社会体験のためのインターシップの拡充や資格取得といった特定の目的に特化した課外講座も活用し、これを正課の授業と有機的に組み合わせることで、さらなる質の高い教育の提供も目指しています。東京紀尾井町キャンパスの多重的な活用も、この国家社会の重荷にたえられる人材養成のための教育拡充の一つとして位置付けています。

城西大学の挑戦は、日本に留まることなく、教育のグローバル化にも必ずや応えられるものと確信しています。

目次

キャンパスの発展・・・・・・・・・・・・・24

城西スポーツ・・・・・・・・・・・・・56

学生たちの姿・・・・・・・・・・・・・76

父母後援会の活動
同窓会の活動・・・・・・・・・・・・・92

学部紹介・・・・・・・・・・・・・108

国際交流 …………… 130

創立40周年記念行事 …………… 140

城西大学年表 …………… 148

The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

キャンパスの発展



▲清光会館



▲創立40周年を迎えて 坂戸キャンパス



▲昭和41年



▲昭和45年



▲昭和52年



▲平成6年

計算センター発足

昭和43年

今日の情報化社会へ展開する科学技術計算機の導入が、「情報科学研究センター」の母体となる「計算センター」設立に結びつきました。

※導入計算機IBM社（IBM1130）主記憶装置容量16キロバイト相当



▲発足当時



▲昭和60年頃



▲平成15年頃

水田記念図書館竣工

昭和53年12月6日

待望の総合図書館は、創立者水田三喜男先生の栄誉と功績を後世に伝えるために「城西大学水田記念図書館」と命名されました。館内には水田コレクションを収蔵する「水田美術館」が付設されました。



▲30万冊を収容する水田記念図書館



▲「林の道」の原画 橋本博英画伯作



▲図書館内にある「林の道」のモザイク壁画



▲豊富な蔵書を利用する学生たち

水田美術館開設

昭和54年3月25日

城西大学水田美術館は、本学の創立者である水田三喜男先生が生前に蒐集された浮世絵コレクションを母体として、創設されました。水田家より本学にご寄付いただいた本コレクションは、浮世絵を中心に200点余りからなり、浮世絵の発生期から現代日本画に至るまでの発展過程を所蔵作品によってたどることができます。また、希版画を含む9点の写楽作品を所蔵しています。当美術館では、浮世絵をご鑑賞いただくとともに日本の文化の発展に寄与することを目的として、特定日を設け公開をしています。



◀菱川師宣 見立石山寺紫式部図 絹本着色横一幅



▶宮川長春 見立葉平東下り図 絹本着色横一幅



◀ 喜多川歌麿 針仕事(三枚続)の左 大判錦絵



◀ 鳥居清倍(初代)太夫と二人の禿 堅大々判丹絵



◀ 勝川春章 美人愛猫愛犬図 絹本着色堅一幅



◀ 葛飾北斎 詩哥写真鏡少年行 長大判錦絵



◀ 東洲斎写楽 松本米三郎のけはい坂の少々実はしのぶ 大判錦絵

城西大学 女子短期大学部開学

昭和58年6月15日

1983年(昭和58年)4月に第一期生を迎えた城西大学
女子短期大学部は、6月15日、その開学を祝い披露の式典
が行われました。



▲女子短期大学部棟竣工式

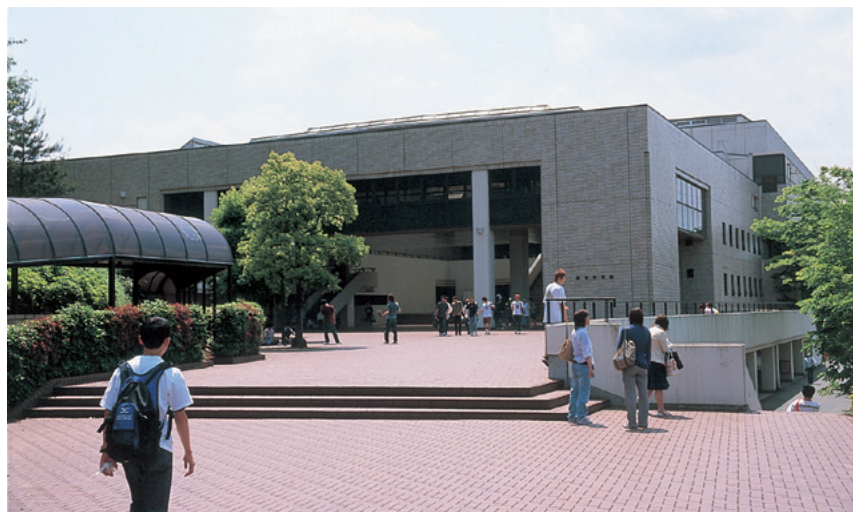


▲開学式に参加する第一期生

総合体育館竣工

昭和60年7月9日

1985年(昭和60年)7月9日午前11時から、新しい総合体育館・学生ホールの竣工定礎式が関係者約200人の参加を得て、同館の「屋根のある広場」で行われました。



▲13,000平方メートル(4,000坪)を有する総合体育館



▲館内には、ホールを始め、温水プール、弓道場、格技室8室等を備える



▲アリーナに画期的な電動式いすを備える



▲緞帳は、秩父の夕焼けを模している

清光会館竣工

平成4年3月28日



▲埼玉景観賞1992 受賞





▲優雅な大階段

本学のシンボルの建物である本部棟「清光会館」は、1992年（平成4年）3月28日に竣工しました。翌月、5月22日には落成披露が行われました。



▲清光ホール(500人収容)



▲清光会館シンボルタワー



城西国際大学開学

平成4年4月

創立者水田三喜男先生生誕の地にほど近い千葉県東金市に、城西国際大学が二学部二学科をもって開学しました。国際性豊かな独特の校風をもつ大学として、東京紀尾井町キャンパスを複合的に活用した総合大学へと成長しています。





▲斬新なデザインを誇る建物群

鋸南 セミナーハウス竣工

平成16年4月10日

創立者水田三喜男先生ゆかりの地に、大学創立35周年記念事業の一環として建設されました。豊かな自然と気候温暖な素晴らしい環境の恵まれた場所に位置し、建物はセミナー棟、宿泊棟、エントランス棟などから成り立ち、同窓生はもとより教職員、在学生、クラブ活動等に利用できます。この施設は、「第12回千葉県建築文化賞」並びに「第32回東京建築賞優秀賞」を受賞しました。



▲大学初のセミナーハウス



JOSAI

安房

ラーニングセンター

平成16年4月19日

千葉県鴨川市の協力によって建設した施設です。セミナー室を中心とした教育施設や宿泊施設、食堂なども充実しており、学生の教育・研究・研修に利用します。一般にも開放し、地域に密着した講座も開催します。近くには、大自然の楽しさを満喫できる海やアミューズメント施設だけでなく、仁右衛門島や郷土資料館など文学探訪に適した名所・旧跡があります。



▲情報機器、映像機器を備えた施設





▲創立者水田三喜男先生の故郷に完成



東京紀尾井町 キャンパス竣工

平成17年1月21日

紀尾井町キャンパスの定礎・竣工記念式典が2005年（平成17年）1月21日午前11時より行われました。水田宗子理事長をはじめ、大学・工事関係者・来賓を含め総勢200名が出席。式典後、祝賀会が行われ、完成を祝いました。施設の見学会では、遠隔授業対応の教室で実際に紀尾井町と城西大学・城西国際大学の3点を結んでの映像が大型スクリーンに紹介されました。





▲160席を備える地下多目的ホール



▲きれいな学生食堂



城西大学

硬式野球場落成

平成17年7月25日

硬式野球場（毛呂山町西大久保字下原62）の工事が完了し、2005年（平成17年）7月25日（月曜）落成式が行われました。柿落としては、本学野球部OBである磯恒之さん（元千葉ロッテマリーンズ、現住友金属鹿島硬式野球部）が始球式を務めました。姉妹校である城西国際大学との対戦は、一時台風の余波による雨にまわれましたが、選手たちの厚い気迫で台風を吹き飛ばすかのような熱戦が繰り広げられました。





▲水田宗子理事長と礪氏(元千葉ロッテマリーンズ)



経営学部棟竣工

平成17年12月2日

経営学部棟が完成し、竣工式が2005年(平成17年)12月2日に執り行われました。経営学部棟は城西国際大学客員教授スニール・ボールド氏とヨランダ・ダニエル氏が設計を担当され、豊かな自然環境を生かした設計となっています。経営学部の学生も参加しての華やかな式典となりました。



▲設計者スニール・ボールド氏(中央) ヨランダ・ダニエル氏(左)



▲17号館を上空から見る「J」の文字



▲メディアエリアの天窗



▲テラスで学生のパフォーマンス



▲2階講堂



▲カフェテラス



▲40周年に生まれた「ジョー君」・「コマちゃん」

研究機構の発展

教育と研究を支える

各研究機構は、学生を育て最先端の研究を支援するために、設置されています。その名称は時代とともに、またその発展とともに変わっています。ここには、現在の呼び名で紹介しています。

国際学術文化振興センター

国際学術文化振興センターは、学校法人城西大学の附属機関として、城西大学、城西短期大学、城西国際大学の学術の振興と国際交流、研究者の育成、教員の教育資質・能力の向上を図ることを目的として活動しています。



▲第1回日中女性学会議に出席



▲大連市婦女連合会会長雷女史と対談

語学教育センター

語学教育センターは、各学部学科の教育内容にふさわしい語学教育システムをつくり、“使える外国語”習得への道を各学部の学生へ、それぞれの能力にあわせて提供していきます。



▲ネイティブスピーカーとの英会話を楽しむ学生。

国際教育センター

国際教育センターは、国際教育交流の拡充、国際教育プログラムの開発と実施、留学生の支援などを目的としています。海外姉妹校との連携強化、新規海外姉妹校の開発、交流促進、海外教育ネットワークの構築、また、JEAP（城西大学海外教育プログラム）のより一層の充実をはかります。



▲在学中の留学体験は、視野を世界に広げるチャンスです。

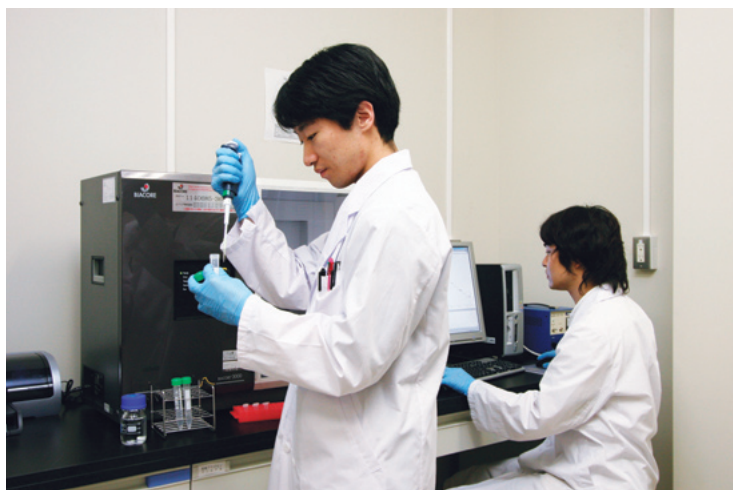


情報科学研究センター

本学では、コンピュータが不可欠となった時代のニーズに対応するため、常に最先端の情報環境の整備に努めています。また、教室変更、呼び出しなど、大学からのお知らせをメール配信するポータルシステム《JUnavi》、本学で開講されている講義内容をwebで検索・閲覧できるシラバスシステムも提供し、学生サービスの充実に努めています。

機器分析センター

ここでは、主として理学部と薬学部の教育・研究を目的とした共同利用施設です。ここで高度化、精密化する高性能大型分析機器を集团的に設置・運用・管理しています。



生命科学研究センター

生命科学研究センターは、薬学や生命科学の教育・研究に不可欠な実験動物の質的向上と、その飼育管理条件の向上を図るための施設です。



生涯教育センター

生涯教育センターでは、城西大学の全学生と地域の社会人を対象に、資格取得・スキルアップ・教養・趣味など幅広いフィールドをカバーする講座を用意しています。



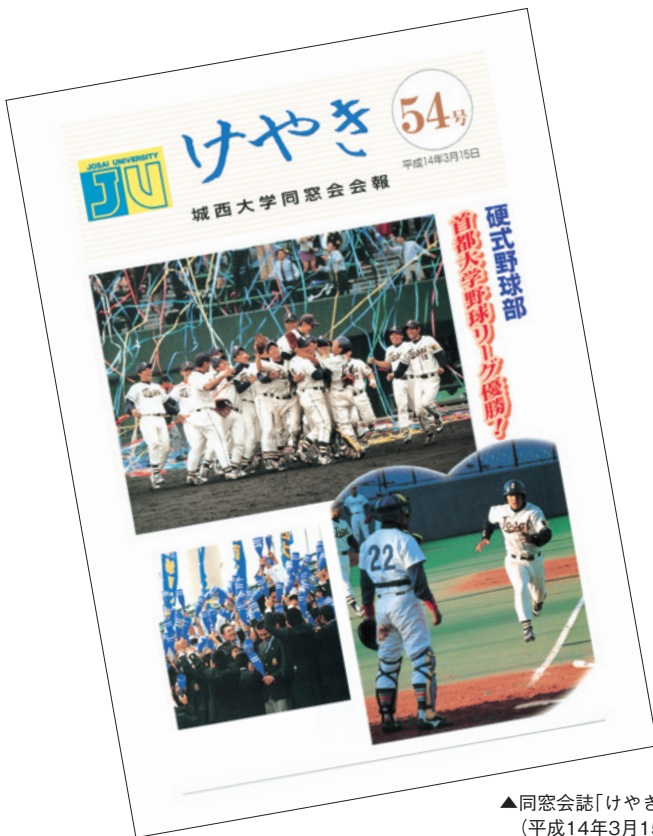
▲エクステンション・プログラムのひとつ「茶道」を受講する社会人。

The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

城西 スポーツ

同窓会誌「けやき」にみる 城西のスポーツ史

眩しいほどに輝くスポーツ界のヒーローたち。同窓会誌「けやき」がそのきらめく瞬間に取材した記録がここにあります。そして、その彼ら、彼女らと同じように力を振り絞った友がいます。キャンパスで同じ時間を共に過ごした、たくさんの学生がいます。



▲同窓会誌「けやき」第54号
(平成14年3月15日発行)



▲女子駅伝部選手として力走する赤羽有紀子選手

平成3年12月15日

けやき 33号



巨人軍指名！ 小原沢重頼君



浦和実業学園から'88年経済学部
に入学。一年の春から登板して活
躍する。三年秋には5勝挙げ首都
リーグで最優秀投手賞を獲得。こ
のころ直球は145kmを越え、フォー
クを交え二振の山を築き、プロの
スカウトの目に止まる。四年の春
のリーグ戦後、オールジャパンの
メンバーに選出。通算成績は20勝
8敗。ゼミは小林毅ゼミナール。

読売巨人軍が小原沢を指名した瞬間。一斉に拍手が起り報道関係者のフラッシュの雨。ドラフト開始から待つこと一時間、テレビを緊張しながら見つめていた彼の顔に笑みもどった。そして監督と堅い握手。

さつそく会場を本部棟に移し記者会見。どんな選手を目指すかの質問に、「巨人軍の桑田選手のように直球を主体にして勝負できるような選手。対戦したいバッターは質問に、「中日の落合選手」とキツパリ応えた。でも一軍にいないらばどうにもなりません。開幕から一軍に入れるよう努力することです」と応えて約一時間の会見は終わった。学内にいた彼のファンが会場に大勢駆けつけ、チャッカリ二人で記念写真を撮ったり、サインをもらう女子学生もいた。

同窓会誌「けやき」第33号(平成3年12月15日発行)から収録

ユニバーシアード世界大会 (シシリー)

ハーフマラソンで

(経済学部四年)

曾谷真理さん優勝！

リポーター 横内 靖典



▲堂々1位でゴール・インタビューを受ける曾谷選手。

現地に我々(横内・鈴木)が到着したのは、陸上競技種目が開始される初日の午後二時頃でした。すぐにも曾谷選手には会えると思っていたのですが、やはり国際試合、こちらの思い通りに事が進まず、更に競技場と曾谷選手が泊まっていた選手村とは15kmも離れたところを知り、驚きました。競技の約一時間前になって、やっと顔を合わせることができました。曾谷選手はとても元気そうでしたが、一安心しました。

本からは、曾谷選手、山中選手、筑波大生(二名)が出場しました。曾谷選手はスタートから好位置につけ、山中選手は先頭集団の最後尾について展開となりました。一周目までは順調に推移し、期待がかった矢先のこと、後方の外国選手に曾谷選手がスパイクさ



れ、しかも靴が脱げてしまうという思わぬハプニングが起こってしまいました。『しばらくはパニックな状態で走っていたのですが、そのうち恐怖心が起こり、ずるずるといつの間にか後退していたそうです。約二km走った時点で、選手団の監督の沢木先生(順天堂大学監督)から制止され走り止めを命じられるに至りました。ハーフマラソンは最終日。スタート時刻(午前八時半)もせまり、私はスタートして約二kmの地点まで走って移動し、そこで応援することになりました。周囲コースで四周するため、同

じ地点を四回通過することになります。第一回は集団でやって来ました。日本の三選手(十倉、伊藤、それに曾谷)は、全員先頭集団の中におり、坦々とした展開でした。二周目には集団がやや縦長の状態になりつつありましたが、曾谷選手は、その集団を引っ張るように自信に満ちた走りを通り過ぎて行きました。三周目はトップで後方三人をやや離して一人で現われました。後方の選手が苦痛の表情であるのに対し、曾谷選手はまったくそれを感じさせない生々とした状況で走っていました。予想通り、四周目で出会った地点では、もう後方の選手は豆粒のように見えませんでした。ゴール地点はとても古い建物の前の広場になっているのですが、多くの人々がこたがえていました。

曾谷選手が堂々とした走り下り坂をゴールに向けてかけおいて来ました。私は数回シャッターを押したのですが、人ごみの中の的確に写せたか自信が持てませんでした。まったく堂々の優勝、後方を一分以上引き離して……。ゴール後は、多くの報道陣や、役員、観衆にもみくちゃにされていましたが、とても良い表情でインタビューや写真を取られていま

した。その日の夕刻、閉会式の前にはハーフマラソンの表彰式が行われ、一番高い台に曾谷選手が登り、第三位にも日本の十倉選手と感動的でした。今回、ユニバーシアード世界大会ハーフマラソンで優勝という結果を得たのも、水田理事長をはじめ、大学役員、同窓会及び女子駅伝部後援会等、関係各位の尽力があつたことと思われます。また、今大会に応援にかけつけた同窓会役員の方々に感謝するとともに、今後同窓生の皆さまには、益々のご声援をお願いいたします。

「今までやってきてよかった!」



陸上競技部男子が 一部昇格

5月23・24・25日の三日間、国立競技場で行われた関東学生陸上競技対校選手権大会で陸上競技部男子は念願の二部(92大学)総合優勝、一部(15大学)への昇格が決まった。優勝は、城西大63・5点、慶応大61点、神奈川大60・6点のまれに見る僅差。創部三十四年目で初の一部昇格である。

一部総合優勝を狙えるチャンスは一昨年度からあったというが、惜しくも優勝は出来ずにいた。そんな悔しさをバネにしながら練習してきたなかでの今年の総合優勝は、O・Bにとっても、また、選手を支えてきたマネージャーにとっても念願の優勝だったにちがいない。

陸上競技は個人競技・でも優勝はみんなの力!

「陸上競技は、個人競技ですから、各自が上位に入賞できるようにと目標と自覚を持って毎日練習をやっているんです。だから、試合の時も選手がみんなそういう気持ちをもって試合に出ているから、自分の結果が上位入賞を果た

していれば点数がつくし、そしてそれがあつまれば、知らず知らずのうちに得点を獲得、そして優勝できるんだと思います。

二日目終了した時点で総合三位になっていました。最終日の四×四百mリレーの結果によつては優勝できるかもしれない。その時一部昇格を意識しました。ゴールした時に、係員が一部昇格を知らせてくれました。走り切ったあとの疲れとてなになんだかわからないまま、一部昇格を知りうれしかったです。



でも、優勝となるとやっぱりみんなの努力のおかげだし、部員全員で喜べるから、個人競技というのだけではないような、そんな感じがします。」

エースの入院騒ぎ

「ケガについては、普段から気をつけているんです。練習が終わっても疲れを残さないようにすると、気をつかいます。

今回、選手は全体的に体調は良く、試合当日までいい雰囲気を作り上げてきたと思います。そんななかで、エースの山岸君経済学部二年が3月に疲労で入院した時はさすがに心配しましたが、短期入院ですんだので、安心しました。彼の結果は、四百mで二位、四百mハードルで一位、四×四百mリレーでアンカーで二位と良く健闘してくれました。」

今後の期待

二部(15大学)は二部と違って、出場するための標準記録も高くなるし、レベルが全体的に上がります。特に短距離系は一部と二部の差があるので、来年も一部残留できるように個人のレベルをアップをはかり、部員一丸となって頑張っていきたいと思いますので、応援をお願いします。」

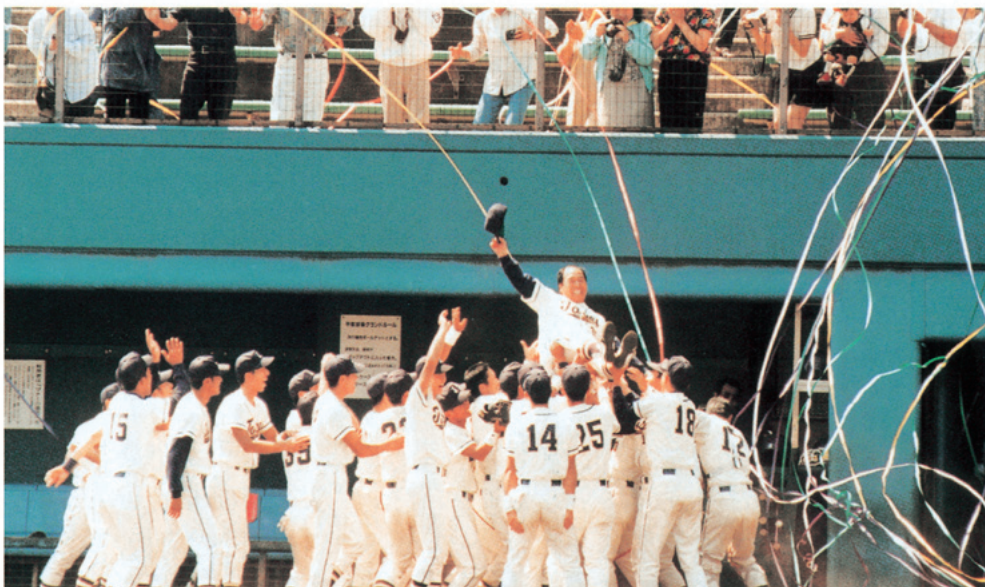
硬式野球部

初優勝に輝く！

硬式野球部は創部以来三十二年、首都大学リーグ一部通算二七三試合目にして、初優勝を達成した。(五月二十六日・平塚球場) 筑波大との初戦に勝ち、初優勝にあつた第一戦は、五回に町田博和君(経済四年)の二塁打で先制したが、六回まで好投していた本柳和也君(経済二年)が、七回に二連打を浴びて無死一・二塁のピンチ。前日に先発したエース磯恒之君(経済四年)がリリーフ登板し無失点で切り抜けると、八回には四番三上哲永君(経済三年)がツアアウト満塁から本塁打で試合を決めた。九回表、筑波大最後の打者を三塁ゴロに仕留めた瞬間、七色の紙テープがグラウンドに舞い、全選手が走り寄り歓喜のヤマが築きあげられ、原田勝美監督の身体が何度も宙に舞った。



▲優勝旗を手渡される主将の青山真也君



▲原田監督の胴上げ やったぜ！

同窓会誌「けやき」第45号(平成9年10月1日発行)から収録



「自分自身に勝つ！」(決勝戦)

祝！ 弓道部全国優勝！

去る5月2日、京都市武道センターで行われた第9回全国大学弓道選抜大会で、弓道部が男子団体の部（五人立て）で七度目、二度目の全国制覇をなしました。夏の合宿後、お疲れのところをおじやまして、直撃インタビューしてみました。

今回の大会を振り返って

松本 思っていた以上の結果が出たのでよかった。

林 練習通りの成果が出てよかった。

山口 反省すべき点もあります。

西田 開催地が自分の地元の京都

ということもあり、そこで力が出せて嬉しかった。

優勝が決定した時の気持ちは

西田 決勝戦は、名門の法政大学が相手ということもあり、信

じられなかった。

松本 鳥肌が立った。

優勝して自分自身や周囲の

反響等変わったことは

松本 自分の射に自信がついた。

西田 周囲の反響に対しては、慢

心してしまわぬよう、気にし

ないことにしている。

今泉 気持ちの面では優勝前と変

わらないようにしている。

弓道の魅力とは

今泉・林 自分自身との戦い。

生澤 当たれば当たるほど楽しく

なる。

山口 年をとってもできる武道。

中根 どこまでも奥が深い武道。

みなさんにとって弓道とは

生澤 特技。

松本 青春みたいなもの。

林 最も難しいスポーツ。

中根 自分の人生そのものの。

今までで一番辛かったこと、

悔しかったことは

今泉 自分自身との戦いに負けた

時。

生澤 思い通りの射がなかなか出

なかった時。

林 試合で緊張してしまい、普

段の力が出せなかった時。

弓道部のアビールを

松本 少数でもみんな一丸となっ

て頑張っています。

林 チームワークがあります。

山口 社会に通用します。

西田 最もけじめのある部です。

後輩にひとこと

一同 来年も、優勝めざして頑張

ろう！

応援してくれている城西の

OB・OG、在学生にひとこと

西田 何度も連続して勝てこそ、

本当に強い部だと思います。

一同 優勝できたのは、この部を

つくりあげてくださったOB

・OGの方々のおかげです。

これからも、全日本優勝を

めざして頑張りますので、応

援どうぞよろしくお願い申し

上げます。

菊地監督のコメント

選手は、平常心・集中力・チームワークで本当によく頑張りました。

選手のみなさん、ご協力ありがとうございました。二連覇めざして頑張ってください。



前列左より 原部長、菊地監督、中根君。
後列左より 山口君、松本君、今泉君、生澤君、林君、西田君。

優勝 全日本大学女子駅伝

— 女子駅伝部創部十年目にして全国制覇 —



「第十六回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」(大阪・長居陸上競技場)大阪城周辺、長居陸上競技場が十一月二十二日(日)に六区間三十九kmで三十九大学(国内二十四大学・海外招待六大学)が出場。本学女子駅伝部は五回目の出場にして「初優勝」に輝いた。

十一月下旬としては、やや気温は高めであったが、快晴・微風のベストコンディションのなか、三十九大学が競技場を十二時五分にスタートした。

(一区) 女子通リ各校のエースが前てやや離されはじめたが、持ち

前の粘りて必死に頑張り、トップの筑波大から二十三秒差の三位、ライバルの京産大には三十六秒差をつけ絶好の位置で二区走者へ。

(二区) 着実に力をつけてきた堀怜子選手は、関東学生選手権入賞者らしく実力どおりの走りて徐々に前方を行く二位の立命館大との差をつめ、三km地点で捕らえ一位に浮上した。その後もスピードは衰えず先頭の筑波大を視野に捕らえ二十一秒差の二位でタスキを渡した。この時点で京産大には約三百m、五十九秒の大差をつけた。

(三区) 入学後、故障に泣いていた藤江舞選手であったが、九月後半から徐々に回復し本来の馬力のある走りに戻ってきており今大会も大いに期待されていたが、期待どおり大阪城内の起伏のある難コースをタスキをもちとうとトップを走る筑波大との差を一気に詰め、早くも二・五km付近で捕らえ、トップに出るとさらにスピードをあげて区間一位の好走で、二位筑波大に十五秒の差をつけて中継所に

入ってきた。

(四区) 入学後、めっきり力をつけてきた赤羽有紀子選手は、トップで受け継いだタスキをリズム感のある走りて二位以下のチームを引離し、折り返し地点を通過するとペースはさらにあがり区間一位の好走。中継所では二位にあがってきた立命館大に九十二秒の大差、三位に浮上してきた宿敵京産大には一分五十四秒、約六百m差として優勝に一步近づいた。

(五区) 最近絶好調であり、大会直前に起用が決まった栗原智美選手は、前半はリズム感のある安定した走りであったが、中盤以降疲れから足取りがやや重くなり苦しんだがよく持ち堪えて、二位に上がった。京産大に八十四秒差でアンカーヘタスキを託した。

(六区) トップでタスキを受け継いだ仮田聡子選手は、最長区間を世界ハーフマラソン代表の実力者らしく終始落ち着いてレース運びで、二位以下を全く寄せつけず、大観衆の応援がこだまする競技場の中、栄光のゴールテープを切った。

—— 総 合 成 績 ——

第1位	城西大学	2時間09分12秒
第2位	京都産業大学	2時間10分10秒
第3位	名古屋商科大学	2時間11分25秒
第4位	立命館大学	2時間11分37秒
第5位	筑波大学	2時間12分10秒
第6位	東京農業大学	2時間12分57秒

—— 城西大学出場選手記録 ——

1区(8.5km)	大石友恵	27分28秒	(区間3位)
2区(6.2km)	堀 怜子	21分05秒	(区間2位)
3区(3.8km)	藤江 舞	12分45秒	(区間1位)
4区(7.5km)	赤羽有紀子	24分23秒	(区間1位)
5区(4.0km)	栗原智美	13分25秒	(区間4位)
6区(9.0km)	仮田 聡子	30分06秒	(区間2位)



サッカー部 天皇杯出場へ！

第79回天皇杯全日本選手権大会の埼玉県予選会を兼ねた第4回彩の国カップ埼玉県選手権大会の決勝戦が9月5日大宮サッカー場で、本学サッカー部は埼玉教員クラブ（関東社会人リーグ代表）に勝ち、見事初優勝し全日本選手権大会の出場権を獲得した。

全日本選手権大会は、Jリーグ（1部・2部）と47都道府県の代表等が出場し11月28日から開催され、決勝は来年の元旦に行われる。本学サッカー部は、11月28日（日）大宮サッカー場にて佐賀県代表と対戦する。

見事初優勝をした決勝戦の90分を振り返ってみると、前半17分DF田村からのスルーパスをFW笹本が豪快にけり込み、貴重な先制点を挙げた。つづく38分にはGK小林からのゴールキックをFW大島が頭で流し、それを笹本が再びゴールをゲット。44分にも大島がゴールを決め、前半で3-0と先行し後半に折り返した。

後半立ち上がりには、埼玉教員クラブは攻勢にでて再三攻め込まれたが、主将のDF神田・GK小林を中心とした守備陣で相手を完全に封じ込めた。

試合後の水都監督の表情は、就任25年目にして大学勢で初の栄冠を手にし、選手の成長ぶりに目を

細めていた。

コメントの中で、前半で3得点して早々と勝負の大勢を決めてしまった。「立ち上がりから力を出さなかったベースを握るのが狙い。そんなチーム戦略を身に付けてくれたおかげです。」と語り、ビックタイトルを獲得したことを手放しに喜んだ。

3-5-2が基本陣形だが、対戦相手によって柔軟にシステムを変えるそう。決勝を前に一週間の強化合宿を組み、多様な作戦を用意していた。神田主将は、「天皇杯出場という目標があり、合宿中もモチベーションが高かった」と振り返る。

攻守ともにバランスがとれてい

た。敵陣に入ると細かいパスをつなぎ、DFの背後にスルーパス。横からの早いアタックも効果的で、リズムカルな攻撃が印象的。守りもリベロの荒井を中心にまとまっていた。

現在、埼玉県大学リーグ一部に所属し、春の大会では優勝した。水都監督は「当面の目標は関東大学リーグ二部への昇格。天皇杯は胸を借りるつもりで戦い、次へつなげる試合をしたい。」と語った。来る11月28日（日）大宮サッカー場で行われる佐賀県代表との試合には、ぜひ皆さんの熱い声援をお願いします。

GO/GO! JO S A I !!

城西大学イレブン

GK	小林 真吾（経済3年 草加東高校）
DF	神田 浩之（経済4年 武南高校）
	片貝雄一郎（経済2年 前橋育英高校）
	荒井 岳志（経済1年 大宮東高校）
MF	田村 正英（経済4年 前橋育英高校）
	島野 光司（経済1年 大宮工業高校）
	榊原 勇司（経済3年 静岡学園高校）
	立川 琢也（経済2年 前橋育英高校）
	山本 卓馬（経済3年 坂戸西高校）
FW	笹本 健二（経営2年 武南高校）
	大島 範久（経営4年 作新学院高校）

天皇杯埼玉県代表決定戦

1回戦 対	与野サッカークラブ	3-0（勝）
準決勝 対	ルミノッソ狭山	1-0（勝）
決 勝 対	埼玉教員クラブ	3-0（勝）

けやき49号 平成11年10月15日

同窓会誌「けやき」第49号（平成11年10月15日発行）から収録

ベダルでヨーロッパを走る

チーム「ブリヂストン・アンカー」所属

〔株〕ブリヂストンサイクル

ロードレーサー 田代 恭崇さん (E93-149)

自転車レースといえば、競輪を思い浮かべる方が多いと思いますが、田代さんは「ロードレース」。ロードレースとは120〜180kmを走る競技で、他のスポーツには類を見ないほどの持久力が必要です。3週間かけてフランスを一周する「ツール・ド・フランス」が有名なように、ヨーロッパではサッカーに次ぐ人気競技です。

そんな自転車競技界で、田代恭崇さんは2001年の「全日本選手権ロードレース」チャンピオンを獲得。栄光のチャンピオンジャージを着て、フランスを中心にヨーロッパのロードレース大会を転戦しています。今回は、そんな田代恭崇さんにお話を伺いました。

自転車をはじめたのは、「大学入学 後、R・C・C (ロードサイクリスト



クラブ) に入部して仲間と大学周辺を走ったことがきっかけ」という田代さん。大学4年次には、もう神奈川県の実業団チームに所属、全日本選手権U-23 (23歳以下の部) で6位入賞。本格的にロードレースに始めました。卒業後は、現ブリヂストン・アンカー監督の浅田監督のもとで若手育成チームに所属。数々のレースで好成績を収めて、翌年には実業団では日本でトップのチームブリヂストン・アンカー

過去の戦歴

2000年	総合優勝
ツールド東北	
2001年	
GP FOIRE DE RENNES	4位
2001年	
全日本選手権	優勝
2001年	
PARIS-AUXERRE	4位
2001年	
全日本実業団	4位

(埼玉県上尾市) にスカウト、トップアスリートの仲間入りを果たしました。シーズン中はチームの一員としてフランスに滞在し、過酷なレース (70〜80試合) を戦っています。今年は更に上を目指すために、南フランスでブリヂストンに籍を置きながらマルセイユのチームにも所属して活動する予定です。



ファンライド
8月号



サイクルスポーツ
6月号

日本ではまだ馴染みの薄いロードレースを、ヨーロッパのように身近なスポーツへと広めていきたいという田代さん。「世界で活躍できる選手」「日本人としてツール・ド・フランスに出場、世界に通用する選手」になるために、また次回のオリンピック (アテネ大会) 出場も視野に入れて、現在もハードなトレーニングを積んでいます。これからも、みんなで応援していきたいと思っています。

フランスでのレースレポート、写真などは下記ホームページに掲載されています。その感動を、ぜひ一度ご覧下さい。

田代 恭崇 オフィシャルスポンサー
ホームページ <http://www.sbcm.jp>

田代さんは、ご協力していただけるスポンサーを募集しています。下記アドレスまでご連絡下さい。

Email: Tashiroyasutaka@aol.com



けやき54号 平成14年3月15日



けやき

58号

平成16年3月15日

城西大学同窓会会報

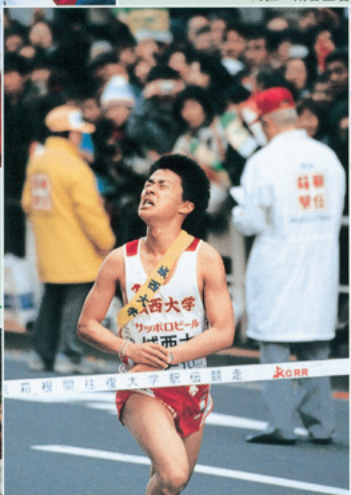


箱根芦ノ湖で第5区走者千鳥さんを迎える勝呂弘安寮長。二人は、男子駅伝部を支えてきた4年生コンビ。

同窓会誌「けやき」第58号(平成16年3月15日発行)から収録



4区 中安秀人君



スタート
箱根初挑戦の瞬間。

10区 南谷望君



スタート
箱根初挑戦の瞬間。

駒沢に遅れること34分24秒、城西の最終ランナー南谷望君(経営1年 徳島東工業高校出身)が倒れこむようにゴールです。総合タイム11時間42分15秒。若いチームで挑んだ城西の箱根駅伝初挑戦は、第19位に終わりました。

鶴見中継所
大勢は決したか。国士館もここで繰上げスタートです。城西は第19位。

読売新聞社前



スタート
箱根初挑戦の瞬間。

駒沢に遅れること34分24秒、城西の最終ランナー南谷望君(経営1年 徳島東工業高校出身)が倒れこむようにゴールです。総合タイム11時間42分15秒。若いチームで挑んだ城西の箱根駅伝初挑戦は、第19位に終わりました。

鶴見中継所
大勢は決したか。国士館もここで繰上げスタートです。城西は第19位。

鶴見中継所
トップは日体大。以下、駒澤、帝京、大東文化、亜細亜、日大、東海、法政、東洋、城西はトップに遅れること1分07秒、第10位という地好の位置で2区河野孝志君(経営2年 青森山田高校出身)に中継しました。城西の後に、山梨学院、東慶大、神奈川、早稲田、学連選抜、中央、中央学院、順天、国士館、関東学院が続いています。

戸塚中継所
トップ東洋。城西は中央学院に続き第17位に後退です。トップ東洋大学に遅れること5分40秒で3区高岡寛典君(経営1年 土浦工業高校出身)へタスキをつなぎました。



3区 高岡寛典君



2区 河野孝志君

～平塚監督の言葉です。～
流れに乗れなかったのが一番の原因。力を出し切れなかったのは悔しいです。何をやらなくてはいいかが分かった気がしたので、また来年ここに戻って、もっと高い目標を持ってやりたいと学生に言おうと思います。この経験を生かせる走りをして、なんとしてもこの借りを返したいと思います。

沿線で、そしてテレビの前で声援を送ってくれた同窓生のみなさん、ありがとうございました。
初出場のゴールは、明日の挑戦への始まりです。
本当に、本当にありがとうございました!



1月2日(金)8:00
「第80回東京箱根間往復大学駅伝競走」スタートです。
城西の1区は、田上貴之君(経営1年 白石高校出身)。

スタート直後、依然集団のまま2km地点を通過です。9km地点で先頭は山梨学院。城西は第2集団に位置。東洋・大東文化・亜細亜・東海・城西・帝京・日大・駒澤・日体大の順位で続いています。

東京湾



1区 田上貴之君



東京湾



3区 高岡寛典君



3区 高岡寛典君



2区 河野孝志君

～平塚監督の言葉です。～
流れに乗れなかったのが一番の原因。力を出し切れなかったのは悔しいです。何をやらなくてはいいかが分かった気がしたので、また来年ここに戻って、もっと高い目標を持ってやりたいと学生に言おうと思います。この経験を生かせる走りをして、なんとしてもこの借りを返したいと思います。

沿線で、そしてテレビの前で声援を送ってくれた同窓生のみなさん、ありがとうございました。
初出場のゴールは、明日の挑戦への始まりです。
本当に、本当にありがとうございました!

第80回

東京箱根間往復大学駅伝競走

<再現実況マップ>



～男子駅伝部主務の小林秀崇さんに、今後の展望を語ってもらいます。～
城西は来年にもつながる、1、2年生を中心としたチームです。特に今年入学した中安、田上、4年の千島、3年の大作、2年の河野など、伝統校や強豪校に近づける選手も数名います。伝統ある箱根駅伝を走れたことを誇りに思い、最後まで感謝の気持ちを持って走り抜けました。“これから”です。



6区 斎藤秀幸君

7区 内田光紀君



8区 前田健太君

9区 富岡悠平君



5区 千島明人君

死ぬかもしれない大事故からアテネへ

経営学部1年

栗田 陽介さん

経営学部マネジメント総合学科

Z04-019



「経営学部1年栗田陽介君 アテネ・パラリンピック日本代表選手（シツティングバレーの部）決定！」というビックニュースを聞き、私はこの「けやき」に掲載するべく栗田君本人に取材を申し込んだ。

約束の時間に来た彼を見て私はビックリ！ 爽やかな笑顔、小麦色に焼けた肌、充分に鍛え上げられた上半身、そして一番驚いたのが彼の髪型。今時めずらしい五分刈り（？）にさらに縞々模様、短く線のように刈り込まれたヘアースタイル。トラ刈りとでもいうのか・・・スイカのようにあった。その姿を見て妙に馴染んでしまった私は、笑いを含みながらいろいろと話を聞くことができた。「事故の話もいかな？」の質問に「全然、いいですよ」と彼は明るく答えてくれた。

インタビューは、こんな感じで続いた。

三年前、突然の事故

小学6年生の時から始めたバレーボール。練習に練習を重ねバレーボール推薦で高校に進学した彼は、一年生ながらユニフォームをもらっていた。「アタッカー」として試合で活躍したい」という目標を持ち、部活で毎日練習をしていた。

高校生になって、初めての夏休み。最終日の8月31日に長瀬町に住む同級生の家に友だちと遊びに行った。有名な長瀬の岩盤に行き、高さ10メートルの岩盤か

ら友だちと川に飛び込んで遊んでいた。突然、岩盤が幅約11メートルにわたって崩落。栗田君は崩れた岩の一部と岩盤との間に左足のすねから下を挟まれてしまった。山深い沢だったために、救助隊と医師が到着したのは約2時間後。その間の激しい痛み、恐怖。岩を動かすクレーン車は入れない。

「すねから先を切るしかない。」

医師の問いかけに「バレーをやっている、やっつとユニフォームをもらえたんです。」と訴える。「出血がひどい。今すぐ

切らないと、死ぬ。」と言われ、2、3分考え、

「切って下さい。」と答えた。

私が「長瀬の岩盤の事故といえば、かなりニュースになったよ。たぶんこの辺じゃ知らない人は、いないんじゃないかな？」と聞くと、「僕は知らないけど、病院の前に新聞記者が多勢いたって聞きました。でも、その後すぐに歌舞伎町雑居ビル火災やアメリカ同時多発テロがあつて、病院の前から記者がいなくなっちゃったみたいですよ。」

そうか世間でもいろいろあつた時期だったんだな...そう私は思った。

義足、そしてリハビリ

脚を切る時に一番考えたのが、これからのこと、車椅子の生活への不安だったという。もうバレーボールはできない、そう思っていた時に、主治医が義足を薦めてくれた。

「またバレーボールができる！」

目の前がパツと開けた。

「僕は、義足のことをよく知らなかったの、本当にすぐ走れたり、バレーボールができるって信じてたんですよ。」

傷の治りは遅く、三学期から松葉杖で登校した。クラスメイト、担任の先生は以前と変わらぬ態度だった。みんないつも通りだった。気を使われていたら、前向きにはなれなかったかも、と言う。リハビリも始まった。でもすぐ走れたり、バレーボールができるわけではなかつ



栗田陽介さんからのプレゼント

アテネパラリンピックグッズ ⑧
USAチームサイン入りミニボール 1つ
ピンバッジ 2個

た。「すごく、シヨックだった。脚を切った時より、シヨックだった。」 「すぐ走れないじゃん！」 っ。リハビリは歩くだけで激痛が走り、義足に触れる皮膚が何度も破れて血が流れ、辛かった。

それでもバレーボールをやりたくて部にも復帰した。少しづつだが、杖を手放し、歩きから小走りに、そしてジャンプもできるようになった。その間、ウエイトトレーニングで右脚と上半身を鍛え、もう一度ユニフォームを着るために努力をした。

義足を着け、鋭いジャンプサーブを武器にピンチサーバーとしてコートに戻ったのは、事故から二年経った関東大会だった。

「義足を着けてのリハビリ、よく頑張ったね。想像できないくらい、大変だったんですよ？」と聞いてみる。

「グレート時期もあったんですよ。二年生になり新入部員が入ってきた頃はまだまだうまく動けなくて。ボール拾いとかさせられていて、心の中では選手として入部したのに！ って思っちゃって。それで、部活に出なくなっちゃったんですよ。休んでい

田代恭崇さん 経済学部 E93-149 アテネオリンピック出場

以前「けやき54号」で取り上げた自転車ロードレーサー田代恭崇さんが、アテネオリンピック（ロードレースの部）に日本代表として出場しました。日本ではまだ馴染みがありませんが、ヨーロッパでは人気のスポーツ。これからの活躍で、日本にも自転車ロードレースというスポーツを、もっと広めてくれるに違いありません。

そんな田代選手からアテネオリンピックのお土産をちょうだいしました。抽選で10名様に差し上げます！



田代恭崇さんからプレゼント

アテネ五輪グッズ	①
トレーナー（Fサイズ）	3枚
（Lサイズ）	2枚
キャップ（白）	1個
ボールペン	2本
ピンバッジ	2個

プレゼントご希望の方は、ご希望の品物を1つ明記し官製はがきで①または②係宛にご応募下さい。抽選してお送りします。なおその際、近況報告や応援等をお書き下さい。

宛先 〒350-0295
坂戸市けやき台1-1
城西大学同窓会
プレゼント①係
②係



事故で義足のバレーボール選手のことをテレビで知った、シッティングバレーボールチーム「東京ブラネッツ」のキャプテンが栗田君に手紙をだしたのは、高校三年生の時。それがシッティングバレーとの出会い。シッティングバレーは、座ったままバレーをするスポーツなので、激しい動きはなく、健常者も障害者もお年寄りも女性も全ての人ができるスポーツ。各都道府県に1チームはあり、日本はシドニーパラリンピックにも出場している。シッティングバレーを始めて間もない栗田君は、今までのバレーボールの経験と実力が買われ、今回、アテネパラリンピック日本代表に選ばれた。「単に若いからですよ。」と謙遜するが「選ばれたからには、選ばれなかった選手の分も頑張りたい」と意欲を燃やしていた。

「これからもずっとシッティングバレーは続けていくのか？」の質問に、「わからない。」
「シッティングバレーも面白いけど、やっぱり普通のバレーボールが一番楽しい。今も毎週一度は、バレーボールを仲間としてしている。将来は教員になりたいの

で、大学も教職の授業もあるし、家庭教師のアルバイトもしている。先生になったら、バレーボールを教えたい。それまでいろいろなことを経験したい。」と言う。しっかりとした目標や考えを持っているなと思った。しかし、髪型だけが納得できない。思い切って聞いてみた。すると「自分でカットしたんです。実は、大学に入ってから仲間と四人グループでヒップホップやラップをベースにした曲を作ったり、DJのためターンテーブルを練習しているんです。」と恥ずかしそうに答えてくれた。まさに、イマドキノ子である。また、スノーボードがしたくて、なにも考えずにグレナダに直行！「意外に滑れました。（笑）」したいことや興味があれば、チャレンジ精神でやってみる。



一番右が栗田君

にも努力するんです。怪我をハンデとは思っていません。」
「つらい状況になった時、前向きになれるかなれないかは、本人次第。そして彼は「事故の前も後も、何も変わりはありませんよ。」と言った。



区間新記録を樹立

第21回全日本大学女子駅伝大会 第3区走者

大谷木 霞さん

経済学部経済学科 E03 545



本校が第4位入賞を果たした第21回全日本大学女子駅伝大会。このとき第3区で6年間更新されなかった区間新記録を樹立し、チームを4位入賞に導く大きな原動力となった大谷木霞さんをクローズアップします。

大谷木さんは川越西高校出身の1年生。全日本女子駅伝大会の第3区を任せ

られ、8位でタスキを受けとり、大阪城内の起伏の激しい難コースを力走！あつという間に4校を抜き去り順位を4位まで押し上げ、6年間更新される事のなかった区間記録を1秒更新する区間新記録も打ちたてました。

●3区を任せられた時の心境は？

●任される前から走らなかつたら3区がいいなあという気持ちがあったので、任された時は不安というよりもドキドキワクワクの方が大きかったです。

●区間新記録だとわかった時はどう思いましたか？

●とにかく「びっくり」でした。私？私であつてなの？？？って感じでドッキリなのかという勢いでした。

●区間新記録をとり、自分の生活で変わった事は？

●全く変わらないですね。「よく食べ、よく遊び、よく走る」って感じます。変わったといつたら色々な人から声をかけられる様になりました。

した。皆、喜んでくれるのでそれが凄く嬉しいんです。

●走っている時は何を考えていますか？

●全日本の時は、テレビの向こうに応援してくれている皆が見ているからヘタな走りはできないかと思いながら走りまわりました。

●城西大学女子駅伝部を選んだきっかけは？

●自分の地元の大学ということもあり、よく先輩方が走っている姿を見て。

●城西大学女子駅伝部の特色は？

●「仲良し。元気。明るい。素敵なスマイル♡」

●駅伝部で辛い事はありますか？

●練習は辛いですが、それを皆で達成できたときの嬉しさの方が大きいので、辛い事は忘れます。

●挫折を味わった事はありますか？

●挫折はないですね。入部した頃は全くタイムが出なくて、全然走れなくて悔しい思いはしましたが、陸上をやめた方がいいのかなとか、走りたくないとかは



思った事はありません。

●学業との両立で大変ですか？

●…大変な時もあります…。

●好きな言葉は？

●人生楽しく！

●いつも心がけている事は？

●一生懸命、やれるだけの事はやる事。でもたまに適当。

●これからの抱負を教えてください。

●トラック・駅伝共に日本のトップを競える様な選手になって、応援してくれている皆が喜んでくれる様な走りをしていきたいです。夢はオリンピックに出る事です。それだけにとらわれず、常に楽しく走っているのが一番の夢です。

●同窓生へメッセージをお願いします。

●笑顔忘れず頑張ってください！
城西大学から未来のオリンピック選手が誕生する日も近い未来ではなさそうです。これからの大谷木選手の活躍が楽しみです。大いに期待しましょう。



けやき58号 平成16年3月15日

同窓会誌「けやき」第58号(平成16年3月15日発行)から収録



城西大学同窓会会報

けやき

60号

平成17年3月15日



東西学生弓道選抜対抗試合4年連続出場
中野 貴之さん (E01-341)

東日本にある数多い大学の弓道部員の中から三か月のリーグ戦を勝ち抜き、選り抜かれた13名だけが出場できるこの大会、弓道競技者には、“学生のオリンピック”。この大会に一年生の時から4年間出場したのが中野貴之さん。「本当にすごいことなんです。」と後輩たちも声を揃えます。昨年、昇段試験で四段を取得しました。「就職する会社には弓道部がないので、一般道場に通って練習したい。次は国体出場ですね。」と、次の目標を語ってくれました。

第53回元旦競歩大会一般男子の部優勝
清水 恭平さん (E04-541)

「僕のとりえといったら競歩だけなんです」と笑って話してくれます。競歩を始めて約3年で元旦競歩大会の一般男子の部(20km)の頂点に立ちました。競歩は、歩くフォームが独特のため、審判の目も厳しい。疲れてフォームが崩れたり、少しでも走ったとみなされると、ゴール手前やゴールした後でも失格になる過酷さ。

「でも練習した分だけ、成果が自分に返ってきます。大学にいる間にユニバーシアードに出場できるように頑張ります。」



賞状
第53回 元旦競歩大会
種別 一般男子 20km
記録 1時間4分44秒
第1位 清水 恭平
所属 城西大
栄誉をたたえます
平成17年1月1日
城西大学同窓会
会長 田 英夫

同窓誌「けやき」第60号(平成17年3月15日発行)から収録

箱根駅伝競走

総合15位



「第81回東京箱根間往復大学駅伝競走」は、1月2・3日にシード校10校、予選会通過校9校とオープン参加の関東学連選抜の計20チームが出場して、東京大手町から神奈川県箱根町を往復する10区間217・9kmで行われました。

前回では、9区から10区への中継でタスキが途切れ、箱根の厳しさを味わいましたが、二度目の今回は、往路9位。総合成績は15位と順位を上げました。

往路では、王者駒澤大学を抜き去るシーンや5位まで上がった順位には、興奮した方も多いと思います。復路でも10位以内のシード権争いに絡んだレース展開は、出場2回目とは思えない走りでした。城西大学のタスキをかけ、大手町の読売新聞社前のゴールテープに飛び込んだ姿は、とても感動的でした。



箱根駅伝 ミニレポート

応援拠点へ

神奈川県藤沢市

介護用品店「シルバーサンホーム」前から同窓生、父母後援会神奈川支部のみなさん、教職員、本当に大勢の人が、ここに集まりました。母校の選手が通過する1時間以上前から沿道で「のぼり」を持って待っていても、選手が通過するのはほんの一瞬。目の前を走り抜ける各大学の選手の呼吸音、飛び散る汗、苦しさ



が伝わる表情。沿道からの声援と拍手。先頭から最後尾までの数分間はとても感動的で、心に残る瞬間でした。テレビで見ると「箱根駅伝」と実際に生で体験する「箱根駅伝」まったく違うものでした。

介護用品店「シルバーサンホーム」の店主さん、城西大学のために二日間もお店を開放していただき、温かいコーヒーや「みかん」の差し入れなど、本当にお世話になりました。ありがとうございました！

けやき60号 平成17年3月15日



昨年11月28日(日)に6区間39kmで各地区代表の25大学が出席して開催された「第22回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」(大阪市・長居陸上競技場、城西大学は3位となりました。10年連続入賞の快挙達成と、来年度のシード権(上位6校)も獲得しました。1区で太谷木霞選手が先頭から17秒差の2位と好位置につけ絶好のスタート、2区では酒井直子選手が思うように伸びず5位まで後退。初出場、3区の萩原智美選手が区間4位の好走で3位まで順位をあげ、その後も4区岩村聖華選手、5区小河内由紀選手、6区田川典子選手が本来の力を発揮し第3位でゴールしました。



二・三年生主体で挑んだ今大会、チームに絶対的なエースはいませんでした。が、総合力で戦い昨年の4位から3位と順位をあげました。次大会の活躍も予感させる結果でした。皆さんの暖かいご声援、ありがとうございました。

全日本大学女子駅伝 対校選手権大会

第3位

女子駅伝部10年連続入賞の快挙!



総合成績

第1位	立命館大学	2時間09分03秒
第2位	名城大学	2時間09分30秒
第3位	城西大学	2時間11分24秒
第4位	佛教大学	2時間13分10秒
第5位	京都産業大学	2時間13分34秒
第6位	城西国際大学	2時間14分02秒



この大会は、全日本大学女子駅伝大会の上位11大学と各地区学連選抜8チームが出席、城西大学の地元開催の大会とあって、沿道にはたくさんのお客さんが応援に来てくれました。テレビ放映もあったので、自宅で応援された方々にもどうもありがとうございました。(スタート→8位↓3位↓2位↓白鷗大学と同時中継↓2位↓追い上げて13秒差、2位でゴール)の展開は、手に汗握る場面の連続でした(本稿の記者がテレビ観戦だったことが見えミエ...)。埼玉県庁・北本市の折返し、上尾運動公園陸上競技場と駆け抜ける姿は、地元住民にとっては「オオ、ここは〇〇あたりだゾ」と分かるだけに緊迫感充分でした。この大会は本年度最後の駅伝レース。2位ゴール後も、来年も頑張っ

全日本大学女子選抜駅伝 準優勝

2月20日 地元埼玉で開催

けやき60号 平成17年3月15日

同窓会誌「けやき」第60号(平成17年3月15日発行)から収録

The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

学生たちの姿

学生たち

昭和40年代初め頃

開学間もない城西のキャンパスには、広大な敷地と限り
ない学生たちの躍動がありました。現在では大きな木陰
をもたらす木々も、まだまだ学生たちと同様に若々しい。
ここに未来を背負う友が集っています。



▲食堂 うどん30円、カレーライス60円



▲学生寮



▲階段教室もいっぱい



▲広大な敷地も徐々に整備されていきます



課外活動 クラブ・サークル

昭和50年代初め頃

学生生活のなかで、課外活動は友人をつくり、生きていく楽しさを知るもので、大学教育の一翼を担っています。今から約30年前も、城西大学の学生の目は輝いていました。



▲落語研究会



▲考古学研究会



▲漢方研究会



▲旅行研究会



▲自動車部



▲クラシックギター研究会



▲ロードサイクリストクラブ



▲聖書研究会



▲公害を告発し地球の自然を守る会



▲演劇研究会



▲ものを書く会



▲美術部



▲グループ我楽多



▲ハム同好会



▲数学研究会



▲映画研究会



▲教育研究会



▲写真部



▲E.S.S.



▲ダンスファンクラブ



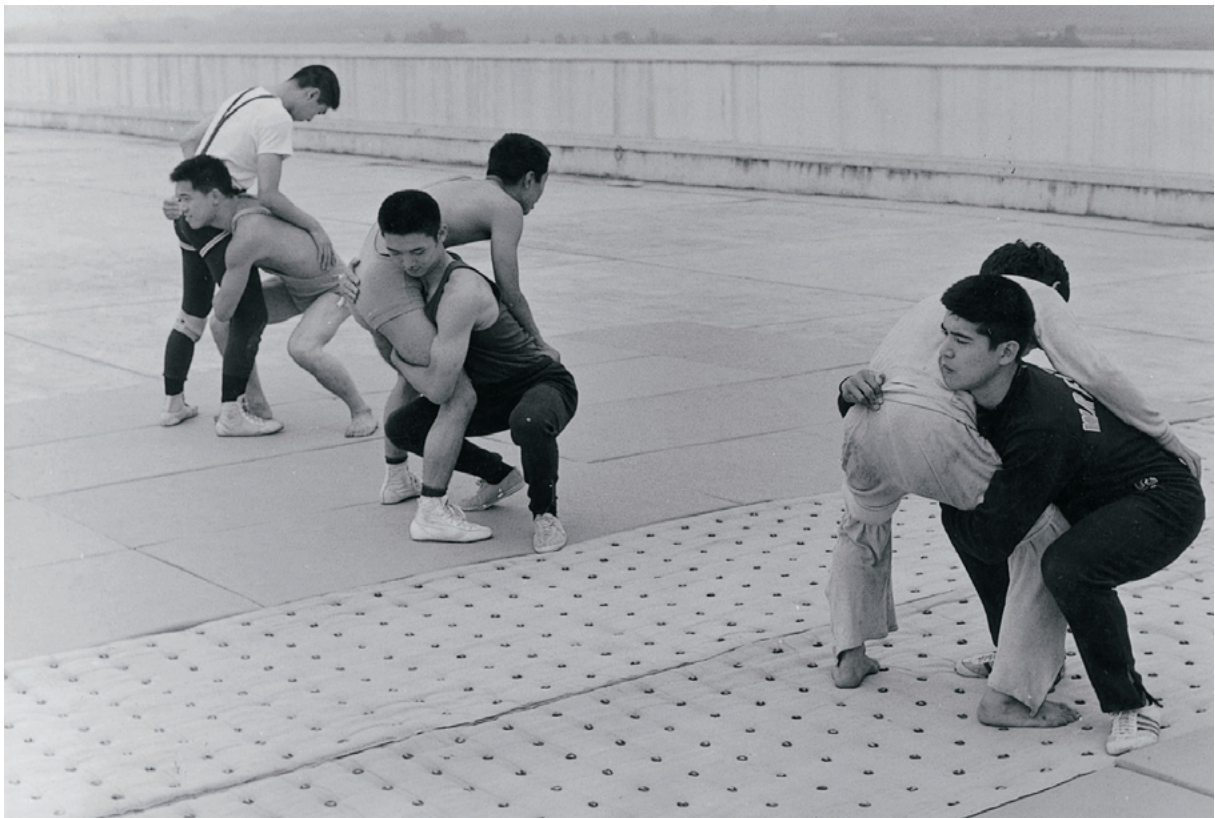
▲第三文明研究会



▲柔道部



▲硬式庭球部



▲レスリング部



▲山岳部



▲ラグビー同好会

学生たち

昭和55年

25年前の坂戸キャンパスで学んだ学生たち。明るく楽しい
笑顔に満ちた学生たちの声が今にも聞こえてきそうです。





▲キャンパスライフを楽しむ学生



▲流行のブックバンドを持つ学生



女子短大の学生たち

開学まもない頃の授業にて

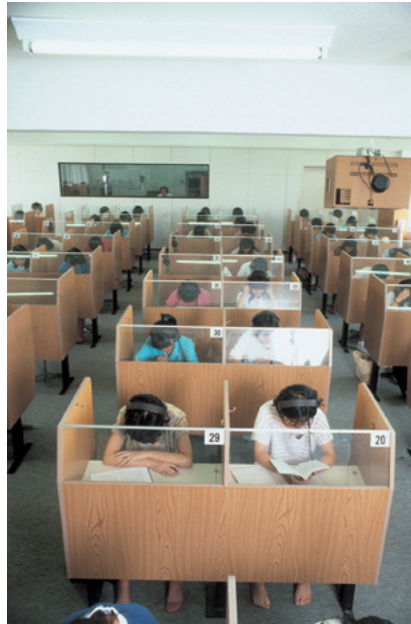
開学時には文学科（日本文学専攻・英米文学専攻）と経営学科（経営実務専攻・秘書専攻）各専攻25名定員・計100名でした。まもなく社会の要請に応じて、各専攻50名定員・計200名へと発展しました。



▲昭和58年4月



▲昭和62年6月 増築後の女子短期大学部棟



▲大教室を埋めつくす

学生たち

平成10年

授業中の写真を収録してみました。講義中の様子は今日と大差はありませんが、コンピュータ室の機器の形と大きさには技術の急速な進歩が感じとれます。





▲実験、ゼミの授業風景

学生たち

創立40周年のときに

創立40周年を迎えた坂戸キャンパスのスナップを収録しました。城西のマスコットキャラクター「ジョーくん」「コマちゃん」が誕生し、現代政策学部が40周年のこの時に開設に向けて動きだしました。大木となつて枝を拡げる木々が40年の時間の長さを物語ります。





▲緑豊かな大学構内



The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

父母後援会の活動 同窓会の活動

父母後援会 地区懇談会

在学生の父母・保護者の方とお会いし、学業の状況、日々の生活についての相談などを交わす機会として、各地で地区懇談会を年一回開催しています。1967年（昭和42年）を第一回として、毎年実施している城西大学を代表する行事となっています。



▲昭和61年の地区懇談会





▲平成4年の地区懇談会



▲昭和50年代初期の地区懇談会

高麗祭 物産展

同窓会・父母後援会が共催

例年、11月初めの文化の日を挟んで、開催する高麗祭に、同窓会と父母後援会の支部が名産品を持ち寄って開催する「物産展」。地域住民にも大変人気の高い同窓会と父母後援会とが共に高麗祭を盛り上げる行事です。







▲試食も楽しみ



▲「半額だよ、美味しいよ」と声が飛ぶ



▲特産物を目当てに多くの人々が立ち並ぶ



城西大学同窓会

10周年記念式典

昭和55年11月3日

同窓会の10周年記念式典は、1980年(昭和55年)11月3日、文化の日に池袋の東方会館で挙行されました。この日、三百名を超える同窓生が集い、会員同士のたゆまぬ交流と城西大学及び同窓会の一層の発展を誓いました。

20周年記念式典

平成2年11月3日

同窓会の20周年記念式典は、1990年(平成2年)11月3日、文化の日に坂戸グランドホテルで挙行されました。五百名を超える同窓生と関係者が集いました。学生の時の思い出を語り合い、さらに城西の未来を熱く語り合う時となりました。



▲10周年記念式典にて



▲20周年記念式典にて

同窓会20周年事業

創立者水田三喜男先生

銅像建立

平成3年11月3日

学校法人城西大学創立者「水田三喜男先生の銅像」建立除幕式が、1991年（平成3年）11月3日の午後、水田清子理事長、水田宗子専務理事、松浦泰次郎学長など多数の大学関係者出席のもと厳かに挙行されました。





▲創作者水田三喜男先生を偲んで

同窓会設立30周年 記念式典・祝賀会

平成12年9月17日

2000年(平成12年)に、城西大学同窓会は設立30周年を迎えました。川越プリンスホテルでの記念式典には、続々と同窓生が来場し、久しぶりに会う友達、先生たちと語りあい、更なる発展を誓いました。



城西大学同窓会設立30周年記念式典・祝賀会





創立者水田三喜男先生 生誕百年記念

句碑建立

平成17年10月25日

学校法人城西大学創立40周年の記念事業の一環として生誕100周年を迎える創立者の遺徳を偲び、東京紀尾井町キャンパスに城西大学・城西国際大学の同窓会・父母後援会のお力添えにより、句碑が建立されました。





The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

学部紹介

経済学部

経済学科

1965年(昭和40年)開設

21世紀は、専門能力を活かして個性的考え方のできる人材が求められています。経済学部では、「学問による人間形成」を目標に、自己の能力を高めることに努力する学生を育てる全人教育をめざしています。それは学生が将来社会人になったときに、専門の学問を生かして自信をもって社会で活躍できる力をつける教育です。こうした理念を実践するために、経済学分野だけでなく、その関連分野の学問も幅広く勉強できるように配慮しています。具体的な目標としては、現代の社会を正しく見る目をもって、社会に貢献する人間を育成すること、多くの授業科目を学んで、自己啓発に努め、高い職業スキルを養成すること、自己のもつ能力を生かして、人生の目標(仕事・職業)を実現すること掲げています。

大学院 経済学研究科

1978年(昭和53年)開設

経済学研究科 経済政策専攻(修士課程)

本研究科は全国でも数少ない「経済政策専攻」として設立されました。その大きな特色は「経済の国際化」をテーマとしたことで、現在の国際化時代を先取りしたといえます。



▲経済学部の授業は、昭和40年の開学時からある2号館を中心に行っています。1・2階は講義室、3階にはゼミ室があります。経済学研究科の講義室は右側の4号館にあります。



▲経済学部5期生のゼミナールの様子。2号館の教室です。左端は、現副学長の小林毅教授。



▲昭和39年起工式にて談話する経済学部初代学部長佐々木吉郎教授(左)と初代学生部長武市春男教授(右)。



▲副学長を務めた渡辺好章教授の2期ゼミ生の記念写真。前列左端が渡辺教授。



◀ 水田記念図書館2階を使ってのゼミナールの様子。この授業は、学生の自主的な発表形式で行われています。

経済学部講義のひとコマ。
場所は4号館西端の教室で
人数が受講できる階段教室です。▶



◀ 情報処理教育は、現代社会で欠くことのできないものとなっています。“使える”ことから“使って何をするか”へと発展させています。

理学部

数学科

1965年(昭和40年)開設

数学は理論の展開により、真理にたどり着くことができる基礎科学です。理工学系はもちろんのこと、社会科学から人文科学に至るまでの領域に数学の考え方が浸透し、成果が重要な道具として使われています。本数学科では、真に基本的な数学と情報科学の手法を社会において自在に扱えるように、学生を指導していきます。さらに「数学」と「情報」の二つの分野の教職課程、教職を体験するプログラム、採用試験支援のセミナーなど、教職に就きたい学生を力強くサポートしています。

大学院 理学研究科

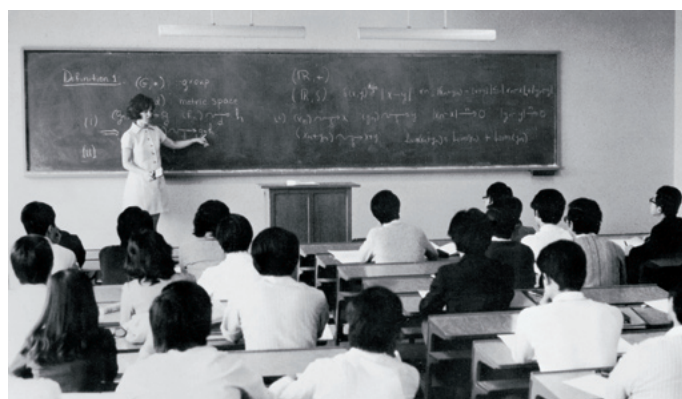
1998年(平成10年)開設

理学研究科 数学専攻(修士課程)

本学大学院理学研究科修士課程数学専攻は、建学の精神「学問による人間形成」を踏まえ「広い視野に立つて精深な学識を授け、専門分野における研究の能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」ことを目的に設立されました。大学院理学研究科修士課程数学専攻は本学数学科を基礎としており、設置目的にあるように、例えば、数学研究者、高度の数学的能力を持つ数学教育者、及び数理技術者などのいろいろなニーズに応えられるような人材の育成をしています。



▲正門を入って左手に見える細長い建物が理学部棟です。4階建ての建物内に数学科の講義室・研究室があり、最上階の講義室は大学院数学研究科の学生たちに利用されています。



▲昭和40年代の数学科の授業のひとつ。1号館4階の教室で黒板をいっぱい使った授業が行われていた様子がわかります。



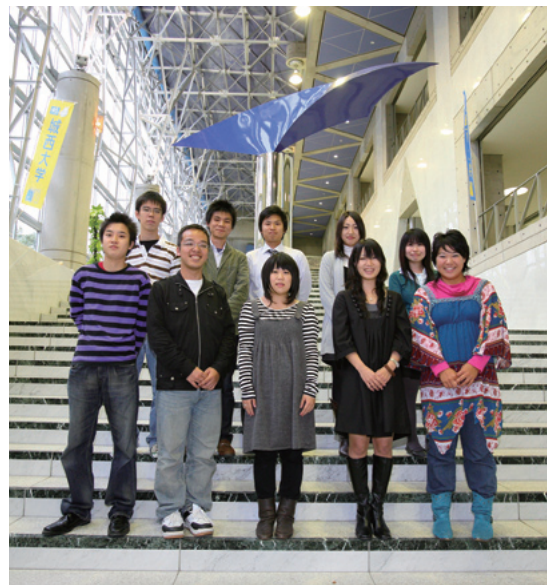
▲数学科のゼミナールの写真です。左から3人目が中山隆教授。コンピュータが「電子計算機」といわれていた時代に、数学科では今日の情報化社会へと結びつく教育が行われていました。



▲昭和48年の卒業アルバムの数学科の記念写真。当時、全国の大学でも数少ない数学科からは、開設当初からたくさんの中学・高校教員となる卒業生を社会に送り出していました。



▲現在の数学ゼミナールのひとコマ。毎週、順番で自分で決めたテーマを研究し発表していく熱心な姿は変わりません。



地域との連携

数学科は、城西大学の地元である坂戸市内の小・中学校で教育現場を体験する「インターンシップ」を実施しています。



▲精密で論理的な思考力とその応用である情報処理能力は、数学科のなかでも大きな位置を占めています。▶



理学部

化学科

1965年(昭和40年)開設

化学科ではこれまで多くの化学技術者を養成し、科学技術の発展に寄与してきました。しかし、科学技術の社会への浸透に伴い、化学技術者の役割もかなり多様化し、化学についての深い知識ばかりでなく科学全般に対する広い知識を兼ね備えた人材が要請されています。この要請に応えるため、化学科では基礎科学からナノテク・IT・生命科学を含む幅広い教育を、学生一人ひとりの目標・関心に沿った履修モデルの形で用意しました。こうして、化学を基礎にして関連する分野を広く理解することにより、社会のさまざまな分野で活躍できる人材を養成したいと考えています。

大学院 理学研究科

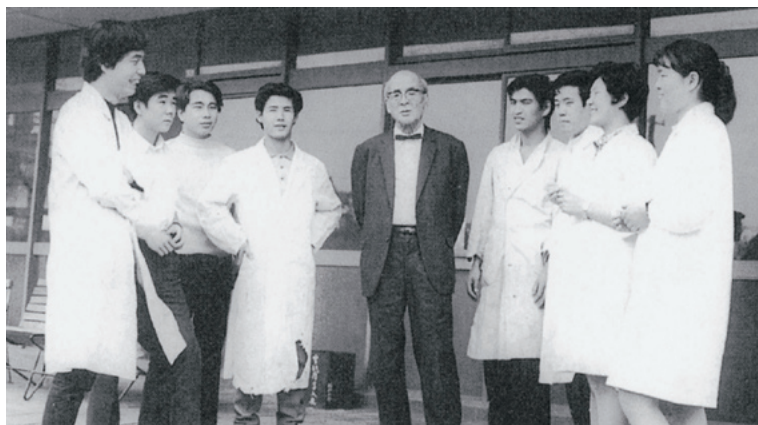
2004年(平成16年)開設

理学研究科 物質科学専攻(修士課程)

物質科学専攻は、「情報科学部門」「分子物性光学部門」「物質機能部門」「分子設計部門」の4部門で構成されています。21世紀の科学技術に則した構成で、コンピュータ、ナノサイエンス、有機電導体、磁性体の分子設計に重点を置いています。カリキュラム面では「情報科学部門」の比重が大きく、コンピュータを駆使して教育・研究が行われます。



▲正門を入って左手に見える細長い建物が理学部棟です。4階建ての建物内に化学科の講義室・実験実習室・研究室があります。



▲理学部の初代学部長、千谷利三教授と学生たち。千谷教授は水田記念図書館に、その貴重な蔵書を収められ、後に続く若い世代に化学への尽きぬ興味を託されました。



▲化学科の実験室の写真。開設間もないときの撮影のようで、全てが新しい輝きを放っています。いまやわが国のどこかでここで学んだ化学の知識が役立っていることでしょう。



◀ 本学の化学科は、実験実習を特に重視したカリキュラムを組んでいます。自分で計画し、実施し、まとめるという過程が、化学を理解し、さらに社会に通用する物の考え方を育むと考えています。

本学の化学科は、生化学分野から物理科学分野まで、幅広く教育・研究を行っているのが特徴です。▶



◀ 実験実習が終わり、ホッとした所。協力しあい、助け合って結果を出す過程は、強い友情と連帯感を育みます。

地域との連携

インターンシップに参加した学生の集合写真。理科という教科にこだわらず、教育の現場を体験しています。



薬学部

薬学科

1973年(昭和48年)開設

薬学科は、医薬分業と医療の高度化に対応できる、質の高い薬剤師養成をめざす6年制学科です。医薬品の適正な使用をすすめて薬害を防ぐことのできる信頼される薬剤師、そして安全を第一に望む生活者としての患者の立場からも医療を評価できる薬剤師を育てることを目指します。さらに、在宅医療、地域医療といった分野にも広く貢献できる人材を育てたいと考えています。

薬科学科

2006年(平成18年)開設

今後、食品や化粧品であっても医薬品と区別が困難なほど強い作用を持つ商品が開発・販売されることが予測されます。消費者が安心して美や健康を追求していくためには、商品の有効性や安全性、誤用による有害性などについて、的確な情報を提供できる人材が必要です。本学科では、生活者の視点から安全性を守ることを念頭において、食品や化粧品、医薬品の産業分野で活躍できる専門家・技術者を養成します。

大学院 薬学研究科

1977年(昭和52年)開設

薬学研究科 薬学専攻(博士後期課程)(修士課程)

創業に携わる研究者、および医療分野で高度な問題解決能力を有する専門技術者の養成を目的としています。そのため専門知識ばかりでなく、同時に多くの状況に適応可能な確固たる基礎知識の修得と、専門分野以外の幅広い視野の育成もめざした教育課程を配備しています。

薬学研究科 医療薬学専攻(修士課程)

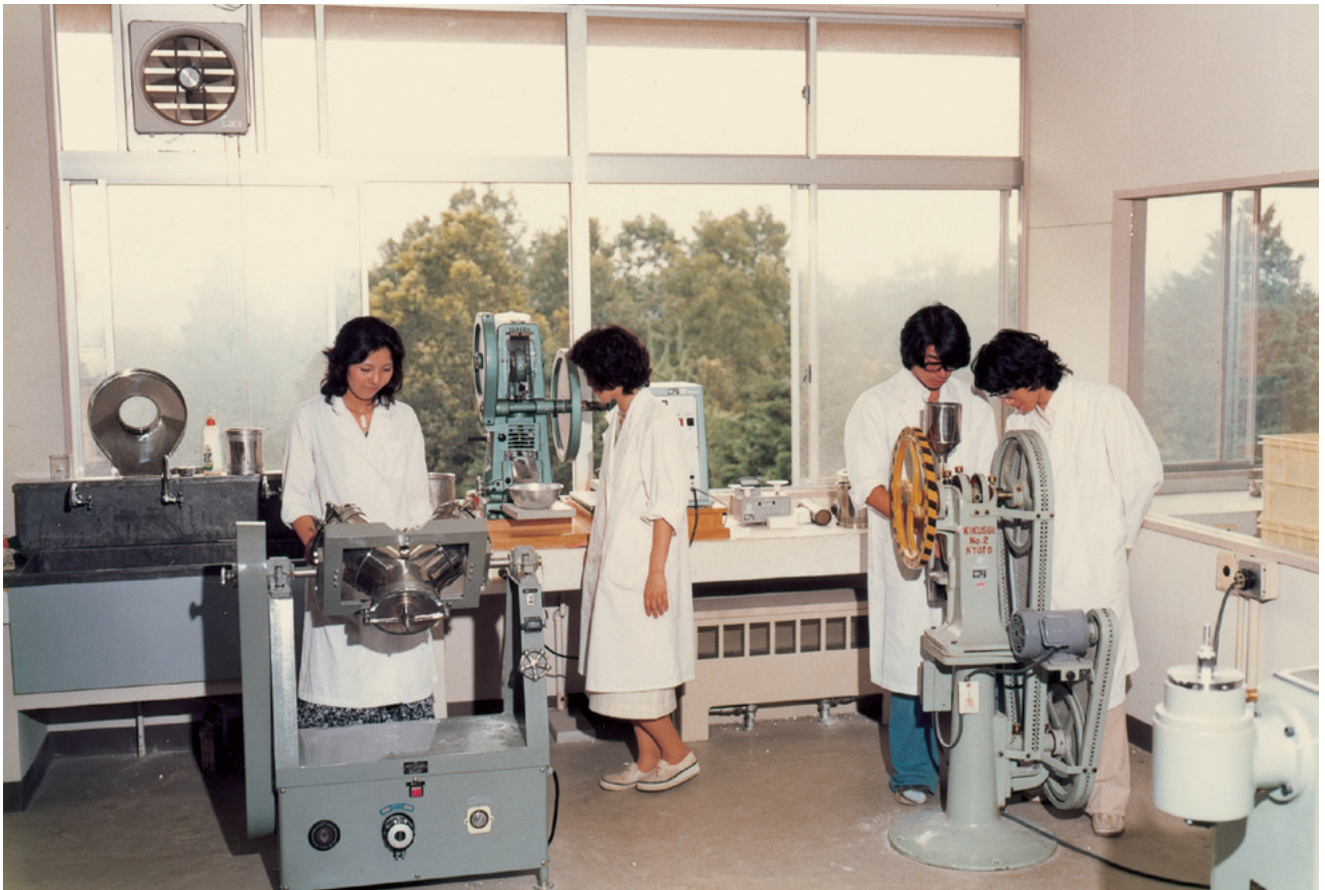
医療に直接関係した薬の専門家である薬剤師の職能、すなわち適正かつ安全な薬物療法の遂行等に関わる基本的な知識・技能を自ら高めることができる場を提供します。医療の適正化と発展に寄与でき、医療人としての高い専門知識と見識を持てるように、医療の現場での学習に重点を置いています。



▲1号館の南側に位置する6号館は、地下1階地上4階建て。薬学部の実習室やゼミナール室、大学院薬学研究科の研究室があります。さらに新棟(18号館)を建設中です。



▲18号館 完成予想図



▲昭和50年代の「製剤学実習」の風景です。薬を混合する機械ですが現在では使用していません。



▲昭和50年代の「調剤学実習」の風景です。薬品を置く棚は今も使っていますが、手前にある「上皿天びん」は「電子天びん」に変わっています。

薬学部は常時、学生にネームカードをつけるように指導しています。薬学科の学生は青いベルト色と定められています。近年、医療機関や企業では、職場での規律を正し、さらに安全管理上の配慮から個人識別票をつけることが一般的になっています。この考え方を学生のときから養成することも、このネームカード着用のねらいのひとつです。

実験実習は少人数のグループで行われます。これにより薬物を扱う技術を養うことは当然ですが、医療の現場が常にチームにより行動することから、人と人とのコミュニケーション能力と協同作業への意識を形成することにも大きく役立っています。





薬科学科は、身体やヒフの健康に関連するモノ（化学物質）や品物、つまり医薬品・化粧品・食品などについて学び研究する学科です。そのため医薬品産業だけでなく、化粧品や機能性食品産業からも注目されています。教育は実務重視型です。大学院に進学し、さらに所定の授業等を修得することで「薬剤師国家試験」の受験資格を得ることもできます。薬科学科の学生は、緑色のベルトのネームカードをつけています。1・2年次の授業は薬学科と共通するものも多く設けられています。



薬学部

医療栄養学科

2001年(平成13年)開設

日本初の薬学部による医療栄養専門学科として、バイオサイエンスを基盤に、人間の健康における栄養の意味を理解する医療栄養学を学びます。薬理・薬物治療の基本的な科目を必修とするとともに、より専門的な薬物治療の手法も修得できます。患者への適切な栄養指導や他の医療スタッフとの連携のために、看護学演習・カウンセリング演習なども学びます。

大学院 薬学研究科

2005年(平成17年)開設

薬学研究科 医療栄養学専攻(修士課程)

薬、食、毒の生体作用を、遺伝情報の発現・制御(ゲノミクス)、タンパク質機能の発現・制御(プロテオミクス)ならびに代謝物変動の制御(メタボノミクス)の情報に基づいて、物質によって引き起こされるものとして同列に議論することができ、人材を育成することに主眼をおいています。

◀国家試験合格率は、全国トップクラス
(第19回100%・第20回99%・第21回100%)。従来の栄養学教育を医療の観点で見直した教育内容の成果です。





◀薬学部医療栄養学科の学生が利用する16号館、最新設備を誇る実習室や講義室、研究室があります。



▲調理実習では、調理の基礎知識や技術の修得を目的としています。
このような実習のなかで、疾患別の栄養管理や食事設計の実践力を身につけていきます。

〈城西ベースカレッジ〉

城西短期大学

ビジネス総合学科

1983年(昭和58年)

城西大学女子短期大学部開設

2005年(平成17年)

城西短期大学へ名称変更

ステップアップを図るために、必要な基礎(ベース)を提供する新しいスタイルのカレッジです。社会で必要な基礎知識・実務能力・幅広い教養を2年間で身につけたい人、将来の進路が定まっていない人、4年制大学への編入・進学を考えている人、仕事に必要な知識やスキルを修得したい人、と思っている人、社会人、ベースカレッジは幅広い学習ニーズに対応しています。そのために、多彩なカリキュラム構成、進路別担任コーチ制、総合大学への編入学・推薦進学制度、資格取得サポートシステムなど充実した教育・サポートプログラムを実現します。



▲清光会館の南に位置しています。城西ベースカレッジの授業はここを中心に行っています。各講義室、LL教室や自習室、パソコン室などを完備しています。



▲平成2年撮影の女子短期大学部の授業。中央に立つのは堀江光教授です。



▲女子短期大学部の嵐山研修。右端は戸田忠一副学長。短大開学は昭和58年で、嵐山研修はこの時から大きな行事のひとつでした。



▲開学当初は東側の1棟だけでした。後ろに見える四角の茶色い屋根は旧体育館で、この敷地に清光会館が建てられました。

❧ 創立40周年 ❧

パソコンのスキルは、現代の学生にとっての基本。基礎から画像編集といった分野まで、各種の授業が用意されています。▶



◀ ビジネス総合学科として経営学の講義は基本的な授業です。

授業のあい間にくつろぐ学生。
楽しそうな声が聞こえてきそうです。▶



◀ 城西短期大学は男女共学の2年制大学、次の目標のためのステップとなる課程と位置づけられています。

別科

日本文化専修課程 日本語専修課程

1990年(平成2年)開設

別科は、グローバル化が急速に進む現在では、アジア諸国から留学生を迎え入れるほどに成長しています。留学生のほとんどは、日本語や日本文化を学び、卒業後は城西大学、城西国際大学をはじめとする大学・大学院に進学しています。将来の進路として、「日本企業への就職」を希望する学生が多いため、PC技能や資格取得の支援も行っています。

日本文化専修課程(上級 1年コース)

日本文化専修課程では、更なる日本語能力の向上と専門的知識の修得を目指し、日本文化のほか経済や経営に関する基本知識を修得します。日本および日本文化を解する国際人を目指すための課程です。

日本語専修課程(初級 1年コース)

日本語専修課程では、日本語の基礎を体系的に学習し、日本の高等教育機関の授業を理解できる能力の育成を目的としています。留学生は習熟度別にクラス編成され、日本語教育の専門家が学生の能力に応じた指導を行います。



▲社会見学や研究で学外へ出かけることもあります。



▲スリランカからの留学生。



▲別科2期生の入学式と社会見学の記念写真。



◆日本の文化、香道の体験。



▲坂戸市役所を見学。



◆工場でインターンシップ。



経営学部

マネジメント総合学科

2004年(平成16年)開設

経営学部マネジメント総合学科は、営利組織だけでなく非営利組織も含めた社会における全ての組織に適合するマネジメントを、学際的に研究し教育しています。グローバルな視点とローカルな視点を持ったマネジメントの専門家、すなわち「グローバル・マネジメント・テクノロジスト」を育成することを目標にしています。これからの企業のあり方、行政のあり方、企業や非営利組織や生活者の環境への適応の仕方などについて、マネジメントの様々な理論を駆使して究明し、21世紀の新しい社会と産業を創造できる人材の育成を行います。

大学院 経営学研究科

2003年(平成15年)開設

経営学研究科

ビジネス・イノベーション専攻(修士課程)

本研究科は、21世紀を迎えて激変する国内外のビジネス環境に対応するために新設されました。「国際的視野に立ち、ビジネスの創造と革新を推進する、イノベーターの育成」を目的とし、企業や自治体などでの国内外でのインターンシップやケーススタディを通して、実践的能力とリーダーシップを養っていきます。



▲アメリカの建築家が設計し平成17年11月に竣工した美しい校舎です。経営学部の授業はここを中心に行います。



▲経営学部棟のテラス。隣接してカフェテリアを設置しています。晴れた日には、ここでたくさんの学生が談笑しています。



▲城西大学経営学部竣工式での水田宗子理事長あいさつ



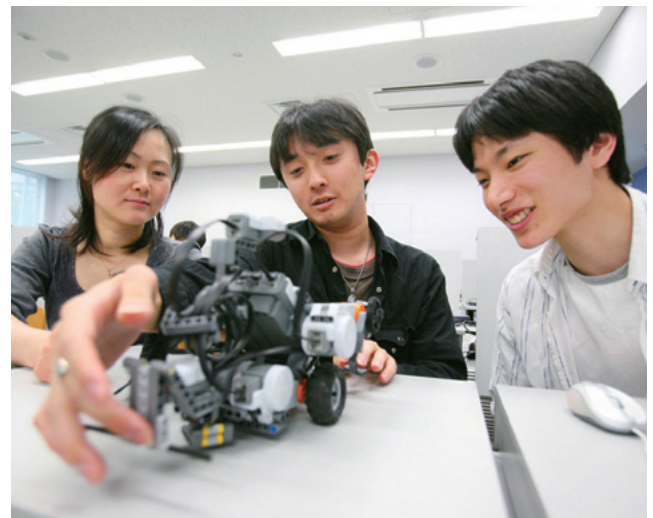
▲経営学部には女子学生が設立した女子学生支援組織のJMW(愛称チェリー)があり、女性の人材育成とキャリア開発に力を入れています。



▲経営学部棟教室での授業のひとコマ。
新しい建物と充実した設備で、新しい
世代の経営学部生が学んでいます。▶



▲会計特訓プログラムは「簿記塾」を中心に行います。毎年日商簿記1級の合格者を輩出しています。公認会計士や税理士はもちろん、企業の財務・経理のスペシャリストを育成します。



▲経営と工学との接点としてロボットをコントロールしてみる授業のひとコマ。
新しい学び方に学生の興味はつきません。

現代政策学部

社会経済システム学科

2005年(平成17年)設立準備
2006年(平成18年)開設

これからの日本社会は、公共性と市場効率の両立を強力に推進していく必要があります。現代政策学部は、△公共政策コース、△医療福祉経済コース、△ビジネス法コース、△地域イノベーションコースの4つのコースを設置し、今後、公共性と市場効率の両立がますます重要となる社会経済領域で活躍できる職業人を養成します。法律や制度(法学・政策学)、経済の動き(経済学)、社会の構造(社会学)、組織のあり方(経営学)を組み合わせ、日本の△社会経済システムが見える(分析できる)「能力」を養成するとともに、職業人として現実と関わっていくための「ライセンス(資格)」と「マインド(心構え)」を形成します。



▲清光会館の南に位置しています。現代政策学部の授業はここを中心に行っています。各講義室、LL教室や自習室、パソコン室などを完備しています。



▲研究室に集まったプロジェクト研究。現代政策学部はゼミナールをこのように名づけて、行動する姿勢を表現しています。



◀現代政策学部の授業は、現実の社会に深くかかわるテーマを取り上げています。講義資料として用意するプリントも現実社会の動きをとらえて選択されています。



▲パソコンを使いこなすだけでは大学教育にとって特に新しいテーマではありません。現代政策学部は、パソコンに親しみながら新しいインターネットビジネスへ展開する「地域イノベーションコース」へと結びつけていきます。



▲新聞を題材にして、自分で課題を見つける授業のひとつ。自分で考える、自分で導きだすことが社会で生きる力を育てていきます。



◀学生がよく研究室に教員を訪ねてきます。現代政策学部は学生と教員との親密さを創り出すことによって、学生一人ひとりの状況を知って指導することが大切であると考えています。

The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

国際交流

ウェスタン・ミシガン大学

姉妹校提携

昭和60年4月1日

アメリカの州立大学です。城西大学女子短期大学部の留学コースとして交流が始まり、夏期・春期等の短期セミナーを中心に学生が交流しています。



カリフォルニア大学 リバーサイド校

リバーサイド校

学術研究及び

教育の交流に関する協定

昭和61年9月4日



▲平成9年10月7日 Dr.ハートレー夫妻が本学を訪問



延辺医学院

友好協定

昭和61年10月22日

中国延辺医学院代表团(姜順求团长)の一行7人は、1986年(昭和61年)10月21日成田に到着し、22日本学を訪問して友好協定に調印しました。



カモーンソン・カレッジ

学術研究及び
教育の交流に関する協定

平成2年5月25日

カモーンソン・カレッジは、カナダ・ブリティッシュコロンビア州の
ビクトリアにある州立大学です。長期・短期の留学、交換留学
など幅広い交流を行っています。



▲カモーンソン・カレッジ理事長デビット・フィリップ氏が来学され、協定を結びました。



▲カモーンソン・カレッジの学生と共に

淡江大学

学術研究及び
教育の交流に関する協定

平成6年4月14日



▲淡江大学学長林雲山先生が来学され、協定を結びました。



▲平成元年11月8日 開校記念日にて



▲化学系教授陣と



▲平成12年に創立50周年を迎えた時の様子



バルセロナ自治大学

姉妹校提携

平成9年1月14日

スペインの都市、バルセロナにある公立大学です。南欧文化を学ぶのに最適です。夏期セミナーを中心に学生が交流しています。

首都師範大学

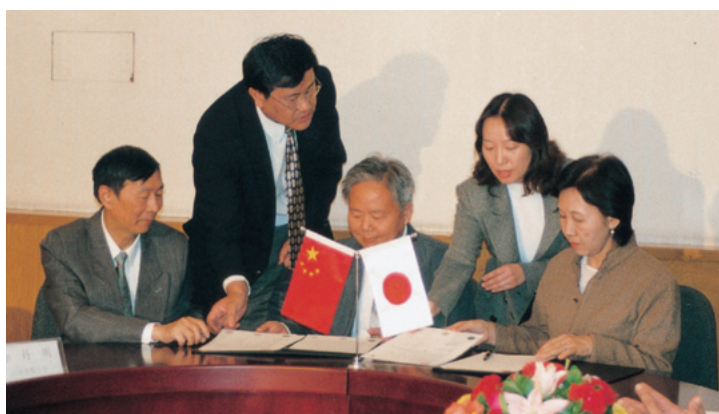
学術研究及び
教育の交流に関する協定

平成10年6月3日

中国・北京にある総合大学です。海外からたくさんの留学生を受け入れ、共に学んでいます。夏期セミナーを中心に学生が交流しています。



▲Louis Lemkow副学長ご一行が本学を訪問



▲揚学長(中央)と協定を交わす





▲張聖萬理事長(右)と朴東順総長(中央)が本学を訪問



東西大学

学術研究及び
教育の交流に関する協定

平成11年4月19日

韓国にある総合大学です。クリスチャン精神に基づき、国際的な大学として発展・充実しています。交換留学、夏期セミナーを中心に学生が交流しています。



▲Dr.In-Ryung Shin総長(右)と水田宗子理事長

梨花女子大学

学術研究及び
教育の交流に関する協定

平成18年1月17日





Josai Education Abroad Program



本学の教育システムのなかで海外留学は大きな位置を
めています。ここに収められたスナップ写真は1987年
(昭和62年)、1988年(昭和63年)にUCR(カリフォルニ
ア大学リバーサイド校)へ留学した学生の様子です。

J E A P

(城西大学海外教育プログラム)

UCR留学



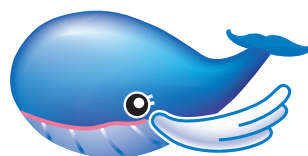


The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

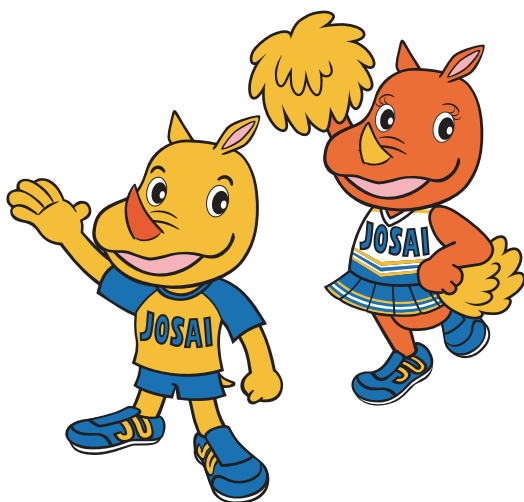
創立40周年記念行事

学校法人城西大学創立40周年 記念祝賀会

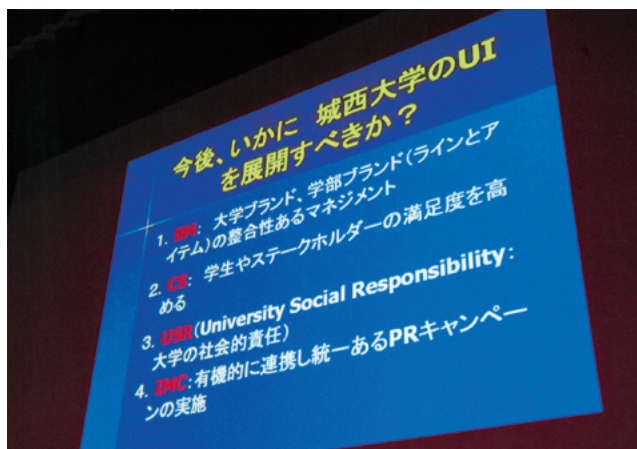
平成17年4月26日



創立から現在にいたるまでお世話になった方々をお招きし、学校法人城西大学創立40周年を祝う記念祝賀会が4月26日東京のホテルオークラで開催されました。特にお世話になった坂戸市、東金市他関係者に理事長から感謝状・表彰状が贈呈されました。また、両大学のマスコットの紹介があり、城西大学は「ジョーくん」が、城西国際大学は空飛ぶ青いクジラの「J」くんの可愛いキャラクターが披露されました。









学校法人城西大学創立40周年記念

東京紀尾井町キャンパス開設記念シンポジウム

城西大学創立40周年を記念するシンポジウムが、15回にわたって開催されました。城西大学・城西国際大学・城西短期大学が主催し、各界の第一人者が講演し、討論を重ね、意義深い催しと高い評価を受けました。



平成17年2月14日(月)

「21世紀アジアと」

日本の大学と人材開発」

東西大学国際関係大学院教授 張済国
静岡産業大学学長 大坪檀
元台湾国立空中大学学長 黄深勳
城西大学経営学部教授 張紀潯

平成17年2月21日(月)

「大学教育とベンチャー育成」

法政大学総長 清成忠男

平成17年2月26日(土)

「ジエンダーで読む『韓流』ブーム
— 今なぜ『冬のソナタ』か —」

城西国際大学学長 水田宗子
東京女子大学学長 尾形明子
法政大学講師 岡野幸江
東京大学教授 姜尚中
韓国ドラマ評論家 田代親世

平成17年5月28日(土)

「成瀬巳喜男生誕百年
記念シンポジウム」

城西国際大学学長 水田宗子
城西国際大学
メディア学部助教授 村川英
映画評論家 佐藤忠男
映画監督 恩地日出夫
女優 香川京子
評論家 川本三郎

平成17年6月4日(土)

「Kurosawa in Black and White
黒澤明—モノクロの世界に
惹かれて—」

コロンビア大学
教授 ポール・アンドラー

平成17年6月17日(金)・20日(月)

「21世紀のビジネスと人材
— 大学におけるビジネス教育は
どうあるべきか —」

アサヒビル株式会社代表取締役
会長兼CEO 福地茂雄
花王株式会社
前代表取締役会長 常盤文克

平成17年6月25日(土)

「Don Quixote, East and West
『ドン・キホーテ』の現在
— 東西双方方向より —」

城西国際大学
比較文化研究所客員研究員
ミッシェル・タンネンバウム
カルガリー大学助教授
レイチェル・シュミット
韓国外国語大学教授 バク・チョル
関西外国語大学教授 蔵本邦夫

平成17年7月29日(金)

「戦後60年シンポジウム
映画にみる女たちの
原爆体験とその記憶から」

映画監督 吉田喜重
明治学院大学文学部
芸術学科助教授 斉藤綾子
南カリフォルニア大学映画学部教授、
城西国際大学メディア学部
客員教授 リビット水田堯

平成17年9月17日(土)

「『すばる望遠鏡で見た宇宙』

国立天文台台長 海部宣男

平成17年10月1日(土)

「ともに生きる
地域社会を創るために」

日本社会事業大学学長 大橋謙策
環境事務次官 炭谷茂
毎日新聞社社会部副部長 野沢和弘

平成17年10月22日(土)・29日(土)

「江戸時代の日本人は
日本をどう発見したか」

京都造形美術大学学長、東京大学名誉
教授 芳賀徹
福岡教育大学教授 坂坂耀子
国際基督教大学教授 小島康敬
城西国際大学教授、比較文化研究所
所長 ヘルベルト・プルリョウ
日本学士院会員、東北大学
名誉教授 源了圓
花園大学教授、京都大学
名誉教授 浜田啓介
国際日本文化研究所
教授 笠谷和比古
管江真澄研究会副会長 田口昌樹

平成17年11月12日(土)

「恋愛思想の歴史
— 比較文化論的に —」

比較文学研究者、文芸評論家
国際日本文化研究センター
客員助教授 小谷野敦

平成17年11月29日(火)

「次世代出版を考える —
活字文化のオープン・プラットフォーム
による
出版の新しいビジネスモデル」

光文社デジタル事業部部長 細島三喜
講談社デジタル事業部部長 吉井順一
中央公論新社書籍編集局次長 伊藤彰彦
松下電器産業(株)パナソニックシステムソリューションズ社
電子書籍事業 グループマーケティング
チームリーダー 佐藤真
「ニコミナルタビ」ソリューションズ(株)
・オンデマンドイメージング
事業部事業部長 亀井雅彦
(株)エフテル竹尾
代表取締役社長 竹尾克巳
キャンノシステムソリューションズ(株)
商品事業統括本部
ドキュメントシステム部部長 多田宏
城西国際大学ビジネスデザイン
研究科長 袁福之

平成17年12月3日(土)

「未来の医療 薬学教育で出来る
こと—健康できれいに生きる—
性差医療の風」

千葉県衛生研究所所長、千葉県立東金
病院副院長 天野恵子
千葉大学大学院薬学研究科
教授 上野光一
東北大学大学院医学系研究科
教授 相場節也
城西国際大学薬学部教授 和田誠基

平成17年12月10日(土)

「未来の医療 薬学教育で出来る
こと—医療におけるこころと
技術—」

昭和大学医学部教授 中島宏昭
山形大学工学部教授 城戸淳二
城西国際大学薬学部部長 中島新一郎
城西大学薬学部教授 杉林堅次

The 40th Anniversary of JOSAI UNIVERSITY

城西大学 年表

城西大学年表

1963年(昭和38年)

6月7日

水田三喜男先生を中心に城西大学設立懇談会開催

1964年(昭和39年)

4月24日

城西大学設立準備委員会設置

6月2日

城西大学校舎新設工事起工

9月30日

学校法人城西大学寄付行為認可申請

城西大学設置認可申請

1965年(昭和40年)

1月25日

学校法人城西大学設置認可

水田三喜男初代理事長就任

城西大学設置認可

経済学部経済学科(入学定員200人)

理学部数学科(入学定員80人)、化学科(入学定員80人)

3月31日

理学部棟(1号館)竣工

4月1日

経済学部棟(2号館)竣工

4月1日

城西大学開学

経済学部経済学科開設

理学部数学科、化学科開設

水田三喜男城西大学初代学長就任

1966年(昭和41年)

4月20日 城西大学第1回入学式、創立記念日
5月31日 食堂棟竣工

1967年(昭和42年)

3月31日 学生寮(収容人員40人)竣工
経済学部棟増築
4月11日 城西大学第2回入学式

1968年(昭和43年)

4月1日 小池音一理事長就任
学生寮(収容人員60人)増築
城西大学父母後援会設立
4月12日 城西大学第3回入学式

1969年(昭和44年)

3月31日 理学部棟増築
教養棟(3号館)竣工
柔道場竣工
4月14日 城西大学第4回入学式
11月3日 第1回高麗祭開催
3月29日 城西大学第1回卒業式
4月11日 城西大学第5回入学式
5月1日 水田三喜男理事長就任

1970年(昭和45年)

3月29日 城西大学第2回卒業式

3月31日 体育館(5号館)竣工

剣道場竣工

4月12日 城西大学第6回入学式

12月1日 城西大学同窓会設立

1971年(昭和46年)

1月11日 城西大学経済学部経営学科(入学定員100人)設置認可

3月28日 城西大学第3回卒業式

4月1日 経済学部経営学科開設

4月11日 城西大学第7回入学式

7月21日 新藤富五郎城西大学第2代学長就任

8月31日 経済学部棟(4号館)竣工

1972年(昭和47年)

3月26日 城西大学第4回卒業式

4月9日 城西大学第8回入学式

9月1日 城西大学薬学部設置準備室設置

1973年(昭和48年)

1月27日 城西大学薬学部薬学科(入学定員80人)、製薬学科(入学定員60人)設置認可

3月24日 城西大学第5回卒業式

3月31日 薬学部棟(6号館)竣工

機器分析センター棟竣工

学生クラブ室竣工

薬学部薬学科、製薬学科開設

城西大学第9回入学式

10月1日 前田充明城西大学第3代学長就任

1974年(昭和49年)

3月25日 城西大学第6回卒業式

3月31日 食堂棟竣工

4月8日 城西大学第10回入学式

1975年(昭和50年)

3月25日 城西大学第7回卒業式

3月31日 経済学部棟増築

アイソトープ実験棟増築

学生クラブ室増築

薬学部棟増築

4月1日 入学定員変更

経済学部経済学科(入学定員400人)、経営学科(入学定員200人)

薬学部薬学科(入学定員120人)、製薬学科(入学定員80人)

4月8日 城西大学第11回入学式

城西大学薬学協力会設立

11月1日 城西大学創立10周年記念式典

1976年(昭和51年)

3月25日 城西大学第8回卒業式

4月1日 入学定員変更

経済学部経営学科(入学定員400人)

薬学部製薬学科(入学定員120人)

4月8日 城西大学第12回入学式

11月7日 第8回関東学生男子弓道選手権大会優勝

12月22日 創立者水田三喜男初代理事長逝去

12月27日 水田清子理事長就任

1977年(昭和52年)

1月31日 10号館竣工

3月25日 城西大学第9回卒業式

3月30日 城西大学大学院薬学研究科修士課程薬学専攻(入学定員24人)設置認可

4月1日 大学院薬学研究科修士課程薬学専攻開設

4月8日 城西大学第13回入学式

1978年(昭和53年)

3月24日 城西大学大学院経済学研究科修士課程経済政策専攻(入学定員10人)設置認可

3月25日 城西大学第10回卒業式

4月1日 大学院経済学研究科修士課程経済政策専攻開設

穂刈四三二城西大学第4代学長就任

4月8日 城西大学第14回入学式

11月5日 第10回関東学生男子弓道選手権大会優勝
12月6日 水田記念図書館(11号館)竣工

1979年(昭和54年)

3月25日 城西大学第11回卒業式
水田美術館開設
3月30日 城西大学大学院薬学研究科博士後期課程薬学専攻(入学定員6人)設置認可
4月1日 大学院薬学研究科博士後期課程薬学専攻開設
4月9日 城西大学第15回入学式
10月20日 第23回日本薬学会関東支部大会開催

1980年(昭和55年)

3月25日 城西大学第12回卒業式
4月1日 堀井善一城西大学第5代学長就任
4月8日 城西大学第16回入学式
11月3日 城西大学同窓会設立10周年記念式典

1981年(昭和56年)

3月25日 城西大学第13回卒業式
4月8日 城西大学第17回入学式
創立者水田三喜男初代理事長胸像除幕式
10月20日 第15回関東学生跡道選手権大会優勝
10月31日
11月7日 学友館竣工

1982年(昭和57年)

3月25日 城西大学第14回卒業式

3月31日 研究室棟(12号館)竣工

4月8日 城西大学第18回入学式

9月30日 大学院薬学研究科博士後期課程薬学専攻薬学博士(第1号)授与

1983年(昭和58年)

1月17日 城西大学女子短期大学部設置認可

経営学科経営実務専攻(入学定員50人)、秘書専攻(入学定員50人)

文学科日本文学専攻(入学定員50人)、英米文学専攻(入学定員50人)

3月25日 城西大学第15回卒業式

4月1日 城西大学女子短期大学部開学

経営学科経営実務専攻、秘書専攻開設

文学科日本文学専攻、英米文学専攻開設

渡辺徳二城西大学第6代学長就任

4月8日 城西大学第19回入学式

城西大学女子短期大学部第1回入学式

1984年(昭和59年)

3月25日 城西大学第16回卒業式

4月7日 城西大学第20回入学式

1985年(昭和60年)

3月25日

城西大学第17回卒業式

城西大学女子短期大学部第1回卒業式

4月1日

国際文化教育センター設置

米国のウェスタン・ミシガン大学と姉妹校提携

4月8日

城西大学第21回入学式

7月9日

総合体育館竣工

学生ホール竣工

12月25日

城西大学女子短期大学部臨時入学定員変更認可(昭和61年度から平成11年度まで)

経営学科経営実務専攻(入学定員100人)、秘書専攻(入学定員100人)

文学科日本文学専攻(入学定員100人)、英米文学専攻(入学定員100人)

1986年(昭和61年)

3月25日

城西大学第18回卒業式

4月1日

松浦泰次郎城西大学第7代学長就任

4月8日

城西大学第22回入学式

9月4日

米国のカリフォルニア大学リバーサイド校と城西大学の学術研究及び教育の交流に関する協定締結

9月26日

城西大学女子短期大学部専攻科日本文学専攻(入学定員15人)、英米文学専攻(入学定員15人)設置申請

10月22日

中国延辺医学院と友好協定調印

1987年(昭和62年)

3月25日

城西大学第19回卒業式

3月31日

生命科学研究センター竣工

4月1日

城西大学女子短期大学部専攻科日本文学専攻、英米文学専攻開設

4月8日
城西大学第23回入学式

5月16日
城西大学エクステンション・プログラム開設記念特別セミナー「激動期の世界経済と日本」をテーマに開催
長富祐一郎大蔵省大臣官房審議官、鈴木敦之経済評論家、三重野康日本銀行副総裁、小長啓一産業研究所顧問、

小林陽太郎富士ゼロックス社長、大場智満国際金融情報センター理事長、細見卓海外経済協力基金総裁、

長岡實日本たばこ産業社長、黒澤洋日本興業銀行副頭取、徳田博美野村総合研究所所長、

糠沢和夫経団連国際経済部長

8月31日
新食堂棟竣工

1988年(昭和63年)

3月25日
城西大学第20回卒業式

4月8日
城西大学第24回入学式

9月29日
城西大学女子短期大学部専攻科経営実務専攻(入学定員15人)、秘書専攻(入学定員15人)設置申請

10月28日
水田美術館にて松本路子写真展開催

12月20日
電装看板「城西大学」(11号館)点灯式

1989年(平成元年)

3月25日
城西大学第21回卒業式

3月28日
第1回環太平洋女性学会議「女性と家庭」を総合テーマに開催

4月1日
城西大学女子短期大学部専攻科経営実務専攻、秘書専攻開設

4月8日
城西大学第25回入学式

5月31日
新食堂学生談話室にてアフタヌーン・コンサート開催

6月1日
日本消費経済学会第14回全国大会開催

6月3日
全国学生弓道選手権大会団体男子の部初優勝

1990年(平成2年)

7月4日

ゴルフ練習場オープン

8月12日

ソウル・オリンピッククムメダリスト、マット・ビオンディ選手来学

8月31日

第1回UCR(米国カリフォルニア大学リバーサイド校)留学記念特別奨学金授与式

9月18日

第1回JEA P(城西大学海外教育プログラム)留学生UCR派遣

9月30日

城西大学別科日本文化専修課程(入学定員20人)、日本語専修課程(入学定員50人)設置届出

11月15日

米国のドーサン市から教育関係者が城西大学視察

3月

入学試験志願者総数が20,000人を超す

3月25日

城西大学第22回卒業式

4月1日

城西大学別科日本文化専修課程、日本語専修課程開設

4月8日

城西国際大学設置準備室開設

5月3日

城西大学第26回入学式

5月25日

第2回全国大学弓道選抜大会男子団体の部優勝

5月30日

カナダのカモーション・カレッジと学術研究及び教育の交流に関する協定調印

6月1日

埼玉県畑知事と県内23大学学長との懇談会開催

7月11日

第42回日本人口学会開催

9月28日

城西大学清光会館起工

11月3日

「城西大学創立25周年スペシャル」バレエ・ブリティッシュ・コロンビアの初来日公演を青山劇場で開催

11月21日

城西大学同窓会設立20周年記念式典

12月21日

JR原宿駅前竹下通りにオフィス「城西大学・城西大学女子短期大学部Just Plaza」オープン

経済学部経済学科(入学定員700人)、経営学科(入学定員700人)

理学部数学科(入学定員120人)、化学科(入学定員100人)

城西大学臨時入学定員変更認可(平成3年度から平成11年度まで)

1991年(平成3年)

- 2月14日 城西国際大学新築工事起工
- 3月25日 城西大学第23回卒業式
- 3月28日 第2回環太平洋女性学会議「女性の自己表現と文化」をテーマに開催
- 4月8日 城西大学第27回入学式
- 11月3日 創立者水田三喜男先生の銅像建立
- 11月24日 全日本学生女子弓道王座決定戦優勝
- 12月20日 城西国際大学経営情報学部経営情報学科(入学定員180人)、人文学部国際文化学科(入学定員180人)設置認可

1992年(平成4年)

- 3月25日 城西大学第24回卒業式
- 3月28日 城西大学清光会館竣工
- 4月1日 城西国際大学開学
- 経営情報学部経営情報学科開設
- 人文学部国際文化学科開設
- 萩原彌四郎城西国際大学初代学長就任
- 4月8日 城西大学第28回入学式
- 4月15日 城西国際大学第1回入学式
- 4月28日 城西国際大学開学式
- 城西国際大学と米国カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)と姉妹校協定締結
- 城西大学清光会館落成式
- 10月1日 城西国際大学J・I・Uコミュニティ・カレッジ開学
- 10月3日 城西大学にて日本秘書学会第15回関東・東北ブロック研究会開催
- 11月7日 第1回J・I・Uフェスティバル開催
- 11月18日 城西大学清光会館が「1992さいたま景観賞」受賞

1993年(平成5年)

12月5日

城西大学にて第4回埼玉県外国人留学生交歓フェスティバル開催
第1回城西大学日語スピーチコンテスト開催

1月20日

城西大学にて日本ポリアミン研究会開催

1月28日

スベースシャトル搭乗クルーメンバー、向井千秋さんら5人が城西大学に来学

3月25日

城西大学第25回卒業式

3月31日

城西大学全天候型グラウンド(第5種)公認完成

4月1日

城西大学女子短期大学部専攻科日本文学専攻、英米文学専攻認定(学位授与機構)

4月4日

城西国際大学第2回入学式

4月8日

城西大学第29回入学式

6月26日

城西大学公開シンポジウム「21世紀に向けての情報教育の新展望」をテーマに開催

10月2日

城西国際大学公開シンポジウム「高齢者はどう生きるか―若者とともに考える」をテーマに開催

10月13日

城西国際大学D棟とE棟竣工

12月4日

城西国際大学公開シンポジウム「製造物責任をめぐる諸問題」をテーマに開催

12月7日

城西大学学術文化講演会「21世紀に向けての行政改革の方向」をテーマに開催

1994年(平成6年)

1月11日

城西国際大学とスペイン・バルセロナ自治大学の姉妹校協定締結

3月26日

城西大学第26回卒業式

3月29日

城西国際大学開学モニュメント「風と細胞」完成

4月1日

水田宗子城西大学第8代学長就任

4月6日

城西国際大学第3回入学式

4月8日

城西大学第30回入学式

4月14日

城西大学と淡江大学の研究・教育プログラム及び学術の交流を目的とした協定締結

4月15日

城西国際大学と淡江大学の姉妹校協定締結

5月26日

城西大学に水田清子理事長句碑「石路の花」建立

9月9日

城西大学にて日本応用心理学会第61回大会開催

10月31日

城西大学薬学協定会設立20周年記念式典

11月12日

城西大学にて日本薬学会関東支部大会開催

12月8日

城西国際大学第18回ファカルティーセミナー「谷川俊太郎氏「自作詩朗読と語り」をテーマに開催

1995年(平成7年)

3月25日

城西大学第27回卒業式

4月3日

城西国際大学第4回入学式

4月8日

城西大学と高麗川駅間のシャトルバス運行開始

10月20日

城西大学第31回入学式

12月22日

城西国際大学にて国際映画祭・国際映画祭シンポジウム開催

12月22日

城西国際大学大学院人文科学研究科修士課程国際文化専攻(入学定員15人)、女性学専攻(入学定員15人)、

人文学部福祉文化学科(入学定員180人)、国際交流学科(入学定員180人)設置認可

1996年(平成8年)

3月9日

城西国際大学第2期工事(F棟、G1棟、第1食堂増設)竣工

3月17日

城西国際大学第1回卒業式

3月22日

城西大学第28回卒業式

4月1日

水田宗子城西国際大学第2代学長就任

4月1日

川面博司城西大学第9代学長就任

城西国際大学大学院人文科学研究科修士課程国際文化専攻、女性学専攻、

人文学部福祉文化学科、国際交流学科開設

1997年(平成9年)

4月2日 城西国際大学第5回入学式

4月8日 城西大学第32回入学式

6月11日 城西大学父母後援会学費補助受給者と大学との第1回懇談会開催

9月25日 城西国際大学にて第2回日中女性学会議開催

10月20日 城西大学女子駅伝部が関東大学女子駅伝対校選手権優勝

10月26日 城西大学にてアジア政経学会第50回全国大会開催

11月7日 城西大学・城西国際大学剣道部が台湾の淡江大学にて開催の国際交流剣道親善試合に参加

1月24日 スペインのバルセロナ自治大学副学長が城西大学を訪問

3月15日 城西国際大学第2回卒業式

3月22日 城西大学第29回卒業式

4月1日 城西国際大学第6回入学式

4月8日 城西大学第33回入学式

4月11日 城西大学にて台湾の淡江大学を迎えて国際交流剣道親善試合開催

5月2日 城西大学弓道部第9回全国大学弓道選抜大会男子団体の部優勝

5月26日 城西大学硬式野球部が首都大学春季リーグ戦初優勝

7月1日 城西大学女子短期大学部俳句講座開催

9月4日 城西大学にて日本管理会計学会1997年度全国大会開催

9月30日 城西国際大学別科日本文化専修課程(入学定員20人)、日本語専修課程(入学定員30人)設置届出

10月3日 ネパールのトリブバン大学副学長とカトマンズ大学副学長が城西大学と城西国際大学を訪問

10月6日 UCR(米国カリフォルニア大学リバーサイド校)のDr.ハートレー夫妻が城西大学と城西国際大学を訪問

10月15日 台湾の淡江大学より林雲山学長をはじめとする友好訪問団が城西大学と城西国際大学を訪問

10月19日 城西大学女子駅伝部が関東大学女子駅伝対校選手権2連覇

1998年(平成10年)

12月19日

城西大学大学院理学研究科修士課程数学専攻(入学定員15人)、

大学院薬学研究科修士課程医療薬学専攻(入学定員24人)設置認可

城西国際大学大学院人文科学研究科博士後期課程比較文化専攻(入学定員6人)、

大学院経営情報学研究科修士課程起業マネジメント専攻(入学定員20人)設置認可

3月5日

城西国際大学総合体育文化センター竣工

3月18日

城西国際大学第3回卒業式

3月20日

城西大学第30回卒業式

4月1日

城西国際大学第7回入学式

城西大学大学院理学研究科修士課程数学専攻、大学院薬学研究科修士課程医療薬学専攻開設

城西国際大学大学院人文科学研究科博士後期課程比較文化専攻、

大学院経営情報学研究科修士課程起業マネジメント専攻開設

城西国際大学別科日本文化専修課程、日本語専修課程開設

4月3日

城西大学第34回入学式

5月2日

城西大学弓道部第10回全国大学弓道選抜大会女子団体の部初優勝

5月19日

米国ウェスタン・ミシガン大学のマーガレット・ライリー博士とヒデコ・アベ博士が城西大学を表敬訪問

6月3日

中国の首都師範大学と城西大学、城西国際大学の学術研究及び教育の交流に関する協定締結

6月13日

城西大学にて日本貿易学会第38回全国大会開催

6月22日

城西国際大学、第4期工事(本部棟、G3棟)竣工

6月24日

城西国際大学とオーストラリアのシドニー工科大学の姉妹校協定締結

10月11日

城西大学女子駅伝部関東大学女子駅伝対校選手権3連覇

1999年(平成11年)

10月23日

城西大学にて日本広告学会第29回全国大会開催

11月22日

城西大学女子駅伝部第16回全日本大学女子駅伝対校選手権大会初優勝

11月29日

城西大学にて第38回関東学生経済ゼミナール大会開催

12月22日

城西国際大学経営情報学部国際経営学科(入学定員180人)、福祉環境情報学科(入学定員180人)設置認可

1月12日

城西大学女子短期大学部経営学科パネルディスカッション「女性とキャリアデザイン」をテーマに開催

3月20日

城西大学第31回卒業式

3月23日

城西国際大学第4回卒業式

城西国際大学に水田清子理事長句碑「夢あまた」建立

4月1日

田中昭城西大学第10代学長就任

城西国際大学経営情報学部国際経営学科、福祉環境情報学科開設

城西国際大学本部棟、水田記念ホール、G3棟、第2学生ホール竣工

4月2日

城西大学第35回入学式

4月6日

城西国際大学第8回入学式

4月13日

城西国際大学と台湾の淡水オックスフォード大学の学術研究及び教育の交流に関する協定締結

4月19日

城西大学、城西国際大学と韓国の東西大学校の学術研究及び教育の交流に関する協定締結

5月7日

韓国の東西大学校張聖萬理事長と朴東順総長が城西大学、城西国際大学を訪問

6月26日

城西国際大学にて日本女性学会創立20周年春季大会開催

10月31日

城西大学女子駅伝部が第5回関東大学女子駅伝対校選手権4連覇

11月24日

城西国際大学・中国社会科学学院アジア太平洋研究所主催第4回日中女性学会議

「閉じ込めや排除からの自由・女性の移動と文化の変容」をテーマに開催

12月22日

城西国際大学大学院経営情報学研究科博士後期課程起業マネジメント専攻(入学定員6人)設置認可

2月8日

鳴川市と城西国際大学の多目的公益用地に関する基本合意書締結

2月29日

城西国際大学にて第1回教育研究シンポジウム「21世紀の教育を考える」をテーマに開催

3月16日

城西国際大学第5回卒業式

3月21日

城西大学第32回卒業式

4月1日

城西大学第36回入学式

城西大学臨時入学定員変更(平成12年度から平成16年度まで)

経済学部経済学科、経営学科

理学部数学科、化学科

城西大学女子短期大学部臨時入学定員変更(平成12年度から平成16年度まで)

経営学科経営実務専攻、秘書専攻

文学科日本文学専攻、英米文学専攻

城西国際大学大学院経営情報学研究科博士後期課程起業マネジメント専攻開設

城西国際大学第9回入学式

城西大学薬学部医療栄養学科新棟起工

城西国際大学にて第1回ジェンダーシンポジウム「創ることと移動すること―文化と自然の中で」をテーマに開催

城西大学薬学部医療栄養学科(入学定員100人)設置認可

城西大学・城西大学女子短期大学部同窓会創立30周年記念式典

城西国際大学別科ビジネス・情報専修課程(入学定員30人)設置届出

城西大学にて「セクシュアル・ハラスメントの現状と対策について」をテーマに講演会開催

城西大学女子駅伝部第18回全日本大学女子駅伝対校選手権大会優勝

12月21日

城西大学女子短期大学部経営情報実務学科(入学定員130人)、現代文化学科(入学定員130人)設置認可

城西国際大学経営情報学部サービス経営システム学科(入学定員180人)、

人文学部メディア文化学科(入学定員180人)設置認可

2001年(平成13年)

- 2月15日 城西国際大学水田記念図書館竣工
- 3月14日 城西国際大学にて第1回日韓女性学会開催
- 3月19日 城西国際大学第6回卒業式
- 3月22日 城西大学第33回卒業式
- 4月1日 城西大学第37回入学式

城西大学薬学部医療栄養学科開設

城西大学女子短期大学部経営学科、文学科を経営情報実務学科、現代文化学科に改組

城西国際大学経営情報学部サービス経営システム学科、人文学部メディア文化学科開設

城西国際大学別科ビジネス・情報専修課程開設

城西国際大学第10回入学式

城西大学薬学部医療栄養学科棟竣工

城西国際大学開学10周年記念求名駅前「カフェカリヨン・ショップカリヨン」オープン

城西大学硬式野球部首都大学野球2001秋季リーグ優勝

城西国際大学女子駅伝部第7回関東大学女子駅伝対校選手権大会初出場

城西国際大学創立10周年記念式典

城西大学硬式野球部第32回明治神宮野球大会準優勝

城西国際大学大学院人文学部研究科修士課程福祉社会専攻(入学定員25人)、

国際アドミニストレーション専攻(入学定員25人)設置認可

2002年(平成14年)

- 3月16日 城西国際大学第7回卒業式
- 3月20日 城西大学第34回卒業式
- 4月1日 城西国際大学第11回入学式

城西国際大学大学院人文学部研究科修士課程福祉社会専攻、国際アドミニストレーション専攻開設

2003年(平成15年)

4月3日 城西大学第38回入学式

4月8日 城西大学薬学部棟(6号館)増改築工事起工

7月11日 城西国際大学水田記念球場竣工

7月30日 城西大学女子短期大学部経営学科経営実務専攻、秘書専攻、文学科日本文学専攻、英米文学専攻廃止届出

9月20日 城西大学同窓会設立30周年記念講演、

篠田正浩監督の「芸能の中の女たち―フェミニズムについて―」をテーマに開催

9月30日 城西大学女子短期大学部専攻科経営実務専攻、秘書専攻、専攻科日本文学専攻、英米文学専攻廃止届出

11月3日 城西大学弓道部第34回関東学生男子弓道選手権大会優勝

12月19日 城西大学大学院経営学研究科修士課程ビジネス・イノベーション専攻(入学定員15人)設置認可

1月25日 創立者水田三喜男初代理事長生家修復竣工

3月18日 城西国際大学第8回卒業式

3月22日 城西大学第35回卒業式

3月31日 城西大学薬学部棟(6号館)増築

4月1日 城西大学大学院経営学研究科修士課程ビジネス・イノベーション専攻開設

4月3日 城西国際大学第12回入学式

4月5日 城西大学第39回入学式

4月15日 学校法人城西大学鋸南セミナーハウス起工

城西国際大学薬学部棟起工

4月24日 城西国際大学福祉総合学部福祉文化学科(入学定員180人)、福祉経営学科(入学定員180人)設置届出

5月12日 城西大学大学院理学研究科修士課程物質科学専攻(入学定員12人)設置届出

8月6日 城西大学経営学部マネジメント総合学科(入学定員500人)設置届出

2004年(平成16年)

10月8日 東京紀尾井町キャンパス起工
10月30日 城西大学硬式野球部首都大学野球2003秋季リーグ戦優勝
11月27日 城西国際大学薬学部医療薬学科(入学定員180人)設置認可

1月2日・3日 城西大学男子駅伝部第80回東京箱根間往復大学駅伝競走初出場(総合19位)

1月24日 城西大学関東大学女子駅伝選手権大会優勝

1月25日 JIUインフォメーションセンター開設

3月18日 城西国際大学第9回卒業式

3月22日 城西大学第36回卒業式

4月1日 城西大学経営学部マネジメント総合学科、大学院理学研究科修士課程物質科学専攻開設

城西大学語学教育センター設置

城西国際大学薬学部医療薬学科、福祉総合学部福祉文化学科、福祉経営学科開設

4月3日 城西国際大学第13回入学式

4月5日 城西大学第40回入学式

4月10日 学校法人城西大学鋸南セミナーハウス竣工

4月19日 JOSAI安房ラーニングセンター竣工

5月21日 城西大学大学院薬学研究科修士課程医療栄養学専攻(入学定員20人)設置届出

5月24日 城西国際大学メディア学部メディア情報学科(入学定員180人)、

経営情報学部総合経営学科(入学定員500人)設置届出

5月26日 水田宗子理事長就任

水田清子名誉理事長就任

8月26日 城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科修士課程ビジネスデザイン専攻(入学定員20人)設置届出

2005年(平成17年)

- 10月23日 城西大学薬学協力会設立30周年記念式典
- 10月31日 城西大学女子駅伝部第10回関東大学女子駅伝対校選手権大会優勝
- 11月8日 城西国際大学大学院福祉総合学研究所修士課程福祉社会専攻(入学定員25人)設置届出

1月2日・3日 城西大学男子駅伝部第81回東京箱根間往復大学駅伝競走(総合15位)

1月21日 東京紀尾井町キャンパス竣工

2月14日 城西大学創立40周年、城西ベースカレッジ発足、東京紀尾井町キャンパス開設記念

国際シンポジウム「21世紀アジアと日本の大学と人材開発」をテーマに開催

3月19日 城西国際大学第10回卒業式

3月23日 城西大学第37回卒業式

4月1日 国際学術文化振興センター設置

城西大学大学院薬学研究科修士課程医療栄養学専攻開設

城西大学女子短期大学部を城西短期大学(城西ベースカレッジ)に名称変更(男女共学)

城西国際大学メディア学部メディア情報学科、経営情報学部総合経営学科、

大学院ビジネスデザイン研究科修士課程ビジネスデザイン専攻、

大学院福祉総合学研究所修士課程福祉社会専攻開設

4月2日 城西国際大学第14回入学式

4月4日 城西大学第41回入学式

4月20日 城西大学創立40周年記念オープニングセレモニー開催

4月23日 城西大学創立40周年記念キャンパスバザール開催

4月26日 城西大学創立40周年記念式典及び祝賀会

5月9日 城西国際大学観光学部ウェルネスツーリズム学科(入学定員120人)設置届出

2006年(平成18年)

7月6日 城西短期大学ビジネス総合学科(入学定員120人)設置届出

7月25日 城西大学硬式野球場落成

7月29日 城西大学現代政策学部社会経済システム学科(入学定員250人)設置届出

9月30日 城西大学薬学部薬学科(6年制)(入学定員250人)、薬科学科(4年制)(入学定員50人)設置届出

10月25日 東京紀尾井町キャンパスに創立者水田三喜男初代理事長句碑「寒椿」建立

12月2日 城西大学経営学部棟(17号館)竣工

12月5日 城西国際大学薬学部医療薬学科(6年制)(入学定員180人)設置認可

1月2日・3日 城西大学男子駅伝部第82回東京箱根間往復大学駅伝競走(総合11位)

1月17日 学校法人城西大学と韓国・梨花女子大学の学術研究及び教育の交流に関する協定締結

3月18日 城西国際大学第11回卒業式

3月20日 城西大学第38回卒業式

4月1日 城西大学現代政策学部社会経済システム学科、薬学部薬学科(6年制)、薬科学科(4年制)開設

城西短期大学ビジネス総合学科開設

城西健康市民大学開学

城西国際大学薬学部薬学科(6年制)、観光学部ウェルネスツーリズム学科開設

城西国際大学シニア・ウェルネス大学開学

城西国際大学第15回入学式

4月4日 城西大学第42回入学式

われら新しき文化を創る

学校法人 城西大学 40周年記念誌

2008年4月20日発行

発行者 水田宗子(学校法人 城西大学 理事長)
編集・発行所 学校法人 城西大学
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26
TEL.03-6238-1300(代表)
FAX.03-6238-1299

